

增補考古畫譜

卷十一



增補考古畫譜卷十一

黒川春村原稿

古川躬行纂輯

黒川真頼増補



也部

山越阿彌陀像 一幀

倭錦云. 惠心僧都. 山越阿彌陀自讚. 京真如堂什物

補 藥師如來像

補 台記云. 久安六年十二月十三日. 爲救成佐疾. 圖

繪三尺藥師如來像. 摺寫同經十二卷. 外題自書之

補 同

補 續古事談卷四 佛法 云. 傳教大師. 又藥師佛ヲ布

ニカキタテマツリテ. コレヲ持テ. 唐ニ渡給フ. 皆

是佛法ノ祖師ナリ

補同

補 倭錦云、巨勢金岡、藥師如來、和州久米寺什物

補同

補 東鑑卷五十一云、弘長三年十一月八日乙酉、依相州禪室御勞事、被加御祈禱等云云、又尊海法印帶等身藥師畫像、七箇日爲令參籠于三嶋、今曉進發、修三時護摩、可信讀大般若經云云

補同

補 大江澄明筆

補 本朝文粹卷十四云、爲亡息澄明四十九日願文、後江相公弟子朝綱敬白云云、又卧病之間、爲蒙冥助、有奉圖藥師如來之願、筆墨初點、丹青未畢、今加

繪畫聊以瀆供養云云

補同

補 并十二神將像

補 畫工便覽卷三云、俊英阿闍黎、不知生處、發祈願圖、繪藥師并十二神將、甚有神異、祈有驗

補

補 矢田地藏緣起

補 皇朝名畫拾彙卷二云、巨勢有康能畫、嘗繪矢田地藏尊緣起

補同

補 本朝畫圖品目云、矢田地藏緣起畫、巨勢有家

補同

補 京都三條檀王法林寺藏

補 住吉家摹本與書云、詞書世尊寺殿箱ニ家隆卿

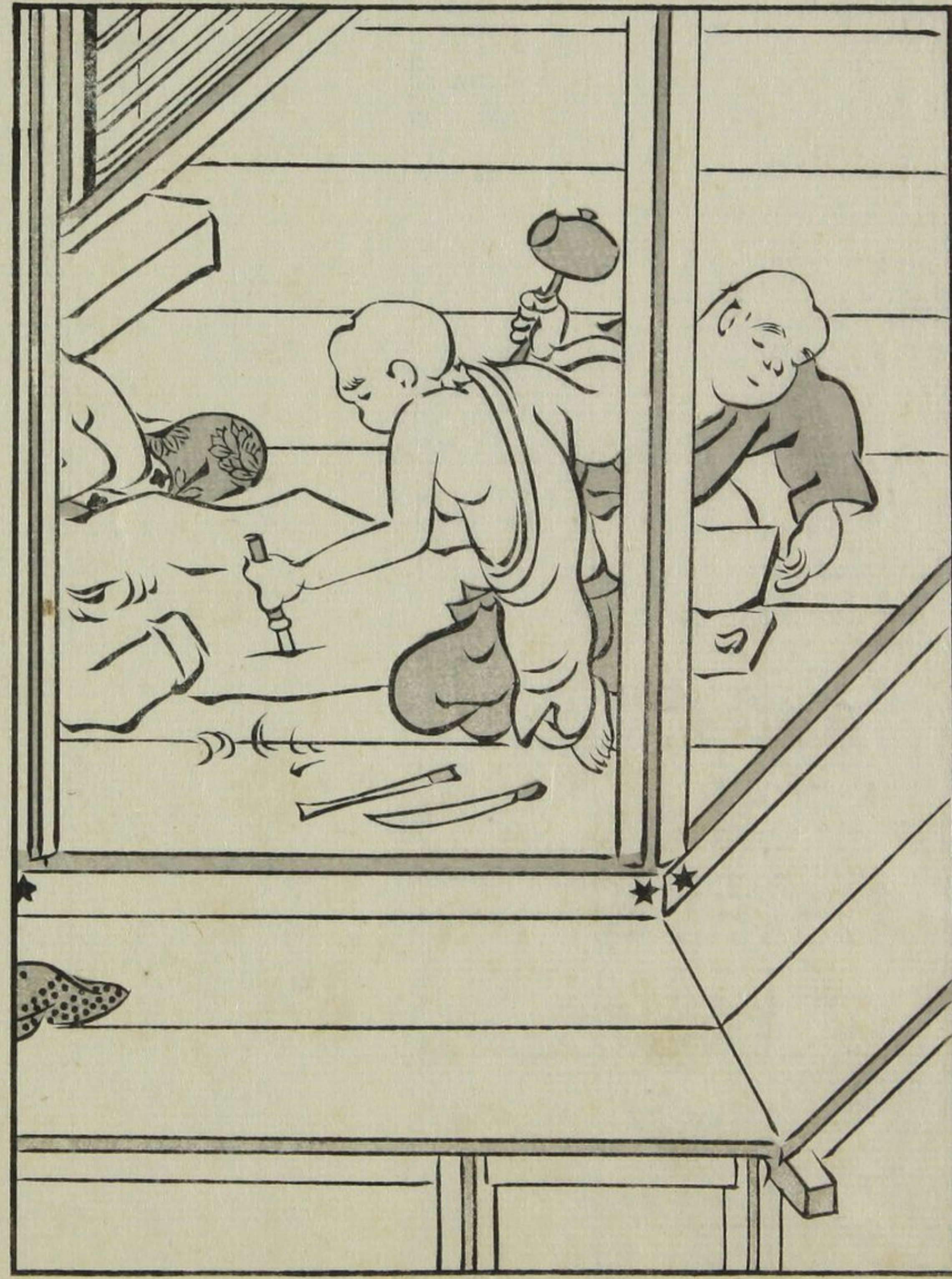
ト書付アレドモ非ナリ、繪春日隆兼、真蹟無相違



矢田地藏縁起
摹本在博物館

御目甫考古畫譜卷十一

三



御目甫考古畫譜卷十一

者也

藥師寺緣起

四卷

詞書道恕僧正。與書云。右藥師寺緣起。舊本蠹損。文詞紛論。闔寺之衆。恐其終歸于磨滅。使予繕寫。文段西岸寺前住明譽古礪上人。逐段而圖。繪事裝潢。既成。叙為四卷。矣。冀勝緣不朽。遐窮來際耳。享保元丙申歲黃鐘中澣。東大寺別當兼華嚴宗長吏。安井門主前大僧正道恕。

補本朝畫圖品目云。藥師寺緣起四卷。當寺塔頭地藏院住持古礪寫。

補古繪目錄云。藥師寺緣起。摹本古礪和尚筆。

展閱目錄藥師寺條云。緣起四卷。古礪畫。筆力可見。地院什藏

續群書類從第八百有藥師寺緣起

補八坂法觀寺緣起

補倭錦云。豐後法橋。八坂法觀寺緣起。

補本朝畫圖品目云。八坂法觀寺緣起。畫安房守仲氏。豐後法橋。

補真賴曰。法觀寺緣起。同物。不。ほ。ノ。部見合をべし。

八幡緣起繪

類聚目錄云。刑部大輔光茂筆。

補真賴曰。八幡緣起。八幡宮緣起。繪。不。は。ノ。部見合をべし。

夜須礼花繪詞 一卷

畫圖品目云。畫土佐光長。詞雅經三位。

畫圖品類云。與書云。年中行事追加。詞書雅經卿。畫。

土佐光長

弘賢曰夜須礼花考一卷あり云。此繪年中行事
追加と記したるハ疑とし。やまらひ花ハ世俗
より事たこして年中行事にいふべきものハ
あらむ

躬行按ふ。百鍊抄卷七云。久壽元年四月。近日京
中兒女備風流調鼓笛。參紫野社。世号之夜須礼。
有勅禁止とみ記。まゝと和訓栞に。長和五年三月。
初て高雄の神護寺ハ。法華會を行ふ。俗ハこれ
をもやまらひ花といへり。縁起ハ。紫野ハ人ハ
ほく集きて。高雄ハ法華會。やまらふをてよと
いふべきを。かくまやをとらや。たまれ歌とて
よめ。西行高を山あまれふりけるつとめら

ふやまらひ花とつづむりつ也とも記せり。藤
原貞幹も。礼そらくハ古の女田樂といふもの
ならむらといへりと。擁書漫筆ハ載たり。但雅
經卿光長時代不遇のよしハ。己ふたびとい
へるべき

補 病草紙 二卷

補 古繪目録云。病草紙二卷。光茂。尾州名古屋ニア

リ

同 殘 缺 疾草子 異 一卷

倭錦云春日。光長。病草子。詞寂蓮

類聚目録云。疾草紙。繪光長筆。同異本

補 古畫目録云。病草紙一卷。光長。土佐家繪本。本朝
畫圖

此品目亦同此

奥書云、右異疾之圖十七枚者、畫所預刑部大輔光長朝臣真筆、無疑濫者也。仍監證如件、享和四子二月九日二十六代孫畫所預從四位上土佐守藤原光貞

補知雄曰、此の畫卷別小證狀一通あり、其文小云、右異疾之圖十七枚者、畫所預刑部大輔光長朝臣真筆、無疑者也。仍監證如件、享和四子二月九日、二十六代孫畫所預從四位上土佐守藤原光貞とあり、又別小證狀一通あり、其文小監定異疾之圖十七枚、畫所預刑部大輔光長朝臣真筆無疑濫者也。天保十三年九月、畫所預土佐守光孚とあり、實に疑なき真蹟ふして、古色愛をべし、又弘化乙巳秋、狩野探真家藏の此畫卷の

摸本を見、探幽法印の摹をり所なきといふ。卷末跋文、欵識なし、其圖をべて三十七葉あり、今存する所の原本おなきもの二十葉あり、探幽法印の筆ふりや否、不詳といへども、全近時の物ふあらび、頗真蹟の髣髴を見、に足るものなり、此本詞書なし、吉光の畫といふものとは、更お別物なり

補同 一卷

補所藏不詳

補真頼曰、病双紙一卷、摸本博物館おあり、婦人の背お大きあり、瘤出たり、又婦人の頬お大きあり、瘤出たり、等の處あり

同 一卷

畫刑部大輔吉光詞兼好法師

奧書云癡疾畫一卷大館高門家藏也其所圖不成人十六種予廿五世祖刑部大輔吉光真蹟詞傳曰卜部兼好所寫也而今分其中一葉見贈予予即摸其圖及其逸者一葉贈之聊謝之其畫雖出一時戲實可謂希世之品寬政丙辰季冬初五日觀之畫所預從四位下土佐守藤原光貞

補圖畫一覽下卷云病草紙一卷畫刑部大輔吉光不成人十六種ヲ畫ク

畫圖品類云繪ハ土佐光長詞ハ雅經卿のよし住吉廣行いへる原本尾張人大館某の所藏とぞ

貫雄曰此卷筆者吉光詞兼好の説不中畫ハ光長詞ハ寂蓮十七葉のものふれおじ原本詞書

あるもの此外ふ不見其他摹本ともふみを詞を逸ををしむべし

補政矩曰此ふ載とる吉光の筆ハ一卷と前條の光長の筆ハ一卷とハ同物ふく筆者を二やうにいひ傳へたるのふあるを二處ふ掲げたるハ誤とぞ

補同 一卷

補筆者不詳

補真頼曰下痢を了女の圖を首として死人を食ふ女の圖ふ終るまべり十七段あり摸本川崎千帟藏

同殘缺 三段

刑部大輔光長筆

故岡田為恭所藏。無詞三段とも老人の圖なき
バ。三老人の卷と名づけたるは愛玩せり。為恭
死後所在を知らず但此他殘缺詞を具したるハ。
脊むしの甚しき人を畫き。詞ハ脊高く龍のまど
うまりたるやうなりあり。云云又肥ふとりたる
女の人ふかゝるてあり。くを畫がきて詞ハ近に
ろ七條たりにうしつけをる女あり。云云是も
上件ハ同書なるべし。猶殘世上ハ存せり

同 一卷
筆者不詳

躬行曰。開卷第一ハ。屎まゝ女あり。卷尾ハ陰囊
のれほきふる法師あり。上手の筆なり。詞書ハ
し

同 一卷
筆者未詳

黒漆朱蔴繪の椀四あり。此處の人物。水ハ梶の葉
つきたる水干を着たる

同 一卷

好古小録云。疾草子一卷。畫光信
畫圖品目云。畫光信。一云光成

補同殘缺 一葉

補白子の繪岸光景所藏

補真賴曰。此の繪ハもと尾張人大館高門のも
たるとし十七段の繪の殘缺ならむとあらば畫
ハ光長詞ハ寂蓮法師のなるべし

補同殘缺 二葉



病草紙
岸光景藏

曾甫考古畫譜卷二十一

九



曾甫考古畫譜卷二十一

疾病の繪舊ハ狩野常信藏今ハ柏木貨一郎藏
補真頼曰此の圖一葉ハ熱病一葉ハ鳥眼ふて
詞書ハ寂蓮法師ふるといへるさらバ亦十七
段の繪の同種のもれなるべし

大和物語 殘缺

中院大納言為家卿書畫一筆

補永觀堂大念佛繪 二卷

補古畫目錄云永觀堂大念佛繪二卷京都永觀堂

藏

補類聚古畫目錄云永觀堂大念佛繪

補真頼曰此の繪融通念佛勸進帳繪とハ別物

ふるべし

山姥雙紙

類聚目錄載之

補陽物くらゑ繪

補古畫目錄云陽物くらゑ繪鳥羽僧正筆

補貞幹曰勝繪東寺金勝院藏今傳ふる所を志

らむ

補真頼曰陽物くらゑ繪ハ勝繪と稱するもの

のりちふり委しくハ加ノ部ふ出せり

屋嶋合戰圖屏風 二帖

倭錦云筆者不定中屏風八嶋軍

補古畫目錄云八嶋合戰圖屏風光信頃之時代尾

張家屏風繪

類聚目錄云八嶋合戰繪屏風 尾州家御藏

補真頼曰此の屏風ハ中屏風ふりとある人い

へ了。倭錦ふも中屏風とあり

補同 二帖

補寺社寶物展觀目錄卷一の誓願寺云。古右京筆。八嶋屏風一雙

同

倭錦云。土佐光信筆。八嶋合戰屏風細畫

補藥師淨土繪障子

補扶桑略記拔萃云。天平寶字三年八月三日云云。大唐鑒真和尚奉為聖武皇帝招提寺所創建也云云。唐法力法師奉造食堂一宇。安置障子藥師淨土繪。阿彌陀佛像。并脇侍菩薩像等。藤原仲實朝臣室家施入也

燒繪

今物語云。やむごとなき人の色とに。いま參り侍

出來小けり。やき忍をゆ傳とくまよし聞色けき。前よよびて檀紙小やき繪をせさせけり。小何をら焼侍るべきといひけき。水小駕をやけといもき。多ふにうちうなづきて。みづおちをしをい。ろやくべきと。口むさみけるをあるじききと。がめて。おなじくハ一首小おせといをきけき。バ。かい。ろしこまりて。浪のうつ岩より火をバ。出まとも。といへりけき。バ。ひとぶるみ。なほめ小けり

躬行曰。今物語ハ左京權大夫信實朝臣の撰小して。多卷なるよしなきと。いまハ僅小一卷のまじ世ふハ残るさかの朝臣ハ。承久頃の人おま。バ。燒繪もいとちうきよれものふハあ

らどなむ。群書類從第四百八十三有今物語一冊

補 八尾飯盛龍泉城圖

補 畠山記卷三云。康應元己巳年十二月二日義満公御所へ還御ナサル。繪師越前守行光入道閑樂其子越前守光重兩人ヲ。畠山左衛門佐基國河品ニ召レテ。國中ノ地利ヲ改メ。殊ニハ八尾ノ城飯盛ノ城龍泉ノ城微細ニ圖セシメラレ。一旬ニ成就セサセテ。右三城ノ大將ニオクラル

補 藥師三尊の經の表紙の繪

補 權大納言忠光卿記云。康安元年六月六日。宸筆心經今日被_レ供養。可_レ被_レ納_レ祇園社可_レ奉_レ拜見之由。昨夕被_レ仰_レ下之間。弊齋早且參内。頃之參御前奉_レ頂戴

披見。紺紙金泥表紙同色也。以金泥奉_レ畫藥師三尊。銘金字。同宸翰帙銅面黃如常。以銀泥懸_レ塚。普通經ヨリハ聊勢□短也

補 真賴曰。宸筆トあるハ後光嚴天皇の宸筆ナ_レるべし

補 山邊赤人像

補 古画類聚目錄云。山邊赤人像。益場某藏

補 同 一幀

補 鹿兒島縣阿多氏某藏

補 山岡道阿彌像 一幀

補 山岡鋼太郎景恭藏。畫工不詳。摸本博物館不_レ有

補 真賴曰。頭巾を被_レり。手なしを着_レる座像ナ_レり

其右手に團扇をもてり。傍に太刀をたてりけたり

補益信僧正像 一幀

補仁和寺御室藏。畫工不詳。摹本博物館にあり

補真頼曰。倚子の坐上座せる像なり。傍に花瓶あり。草花をさし。まきり。畫上に小傳を記せり。應永三十年九月十一日。法印權大僧正弘鏡及元和八年六月。金剛生法子恭畏の裏書あり

由部

補融通念佛本尊像 一幀

補所藏者不詳。摹本博物館にあり。傍に記して云

融通念佛本尊。絹本紺地佛像。金泥

補真頼曰。彌陀三尊。毘沙門。大原良忍上人の像

あり

唯識曼荼羅

倭錦云。秦致真唯識曼荼羅

融通念佛縁起 大原 二卷

繪芝法眼琳賢 常信 詞尊道親王 匣外一題小

奥書云。右爲融通念佛勸進。此繪六十六箇國各一本。可傳賦云云。至德二年乙丑六月廿六日。左衛門尉源家高押

補圖畫一覽上卷云大原融通念佛緣起二卷畫芝法眼詞書尊道親王箱書付小堀遠江守政一常信等

補元榦曰此卷江戸商家某藏なりと西村藪菴物語あり

春村曰此縁起清凉寺にある所の本よりも頗古物也今新吉原大黒屋庄六藏とある但此卷乙卯十月係震火災亡可惜

躬行曰青蓮院尊道親王歸寂ハいつかりけん諸門跡譜ハ文和四年十一月九日任座主貞治二年九月八日辭退應永廿年二月廿七日還補と見えて至徳の頃ハ應へまバ論なし琳賢ハ東大寺大佛縁起の筆者ありこれ卷末に天文

五年祐全法師の奥書を具したるうへハ詞筆者もその頃まで至徳ハ後ろノ事百三十四年むかりふれば此畫工を琳賢といふハ誤なり補真頼曰摹本博物館ハあり畫工芝法眼とす了ことハ狩野常信の鑑定書なり

同 二卷

書畫筆者未詳

卷尾云良鎮房爲融通念佛勸進此繪六十六箇國各一本可傳賦但不限每國一本隨勸進之儀任所望之体一國多本亦及邊鄙蕃夷之界可被傳之云云此願尤隨喜之間一箇國分奉合力者也特資先考幽靈往詣極樂之因惣得法界群類融通无遮之益旨趣如右矣至徳元年八月日左衛門大夫散位

俊直

補真類曰融通念佛縁起二卷卷尾小散位俊直の記ありもの摹本博物館ふあり

同

二卷

畫越前守長隆詞世尊寺行尹卿水野土州所藏

補倭錦云長隆融通念佛二卷

躬行按ふ從二位行尹卿貞和六年正月十七日薨む長隆ハ分脈小同名ありて決しがとけまど凡文永中の人とをべけまば行尹卿よりハ先輩ふして年歴合がとし

同

二卷

繪越前守光顯詞筆者未定所藏

同

二卷

畫芝法眼琳賢詞坊城左衛門名欠杉浦左衛門藏

同

二卷

畫土佐光信詞石山杲守僧正

卷後云這融通念佛縁起兩卷者石山座主杲守院洞

四公賢入公息真蹟無疑爲後証記之而已萬治三曆仲

夏上幹古筆了佐

卷後又云此融通念佛二卷繪土佐光信真筆也狩

野右京進安信

補本朝畫圖品目追加云大原山融通念佛縁起二

卷畫光顯詞杲守濱松彦藏

補同書追加云融通念佛繪卷二卷詞杲守甲辰年

濱松彦ニ入ル

躬行曰石山杲守僧正ハ應安頃の人永正の光

信ハ未生己前なむハ時世懸隔といふべし
補元餘曰此卷近年古筆了伴於京都獲之
補真頼曰此の卷とじゆ古筆氏の藏ありしと
後ハ水野家此藏とありしなりべし濱松侯と
ハ水野越前守なり

同
清涼寺本或二卷
云嵯峨本

嵯峨清涼寺所傳畫前繪所預土佐守藤原行廣前
兵部少輔入道寂濟粟田口民部卿法眼隆光前繪
所備後守藤原光國大夫法眼永春春日繪所預修
理亮藤原行秀各有所
歎東書詞後小松院宸翰妙法院二
品竟然親王青蓮院准三后二條大納言持基公歟比丘聖意
圓滿院僧正尊信清水谷三位中將實秋卿興福寺
別當僧正光曉東大寺寺務尊勝院僧正上己
卷上征夷

大將軍公義持前天台座主岡崎道欽細川嬭真居士性

松赤松沙彌宗壽佐々木聖護院准三后道孝鳥丸山門

尊勝院僧正忠慶下己
卷上

奥書云右此融通念佛勸進之繪六十餘州悉隨所
望傳賦傳之令勸進給之云云此願尤隨喜之間奉
合力令開板者也願以此善願功力及父母六親眷
屬同得往生無邊群生平等利益矣明德元年庚七
月八日開板成阿押

奥書又云依良鎮上人所望滌筆者也應永十一年
甲子十一月十七日禪住坊法印權少僧都承盛押
勸進の沙門良鎮申愚僧此融通念佛の繪百餘本
在免侍了意趣ハ菩提薩埵利物為懐の聖言ハ
順じて六十餘州ハ一本二本或ハ多本此繪と遣

し。あまふく貴賤上下を勧め奉り。名帳を給りて供養をとげ。當麻寺の瑠璃檀ふ奉納せしめて決定往生の因ふをへんとめに。開板せしむるものなり。此靈佛を在々所々ふくをり給せん人々。有所得の心ふ住し利養の中だちとして。檀越の布施を受用する事かしく斟酌あるべきもの也。應永十一年四月十五日。依良鎮上人所望。深筆者也。壽阿押

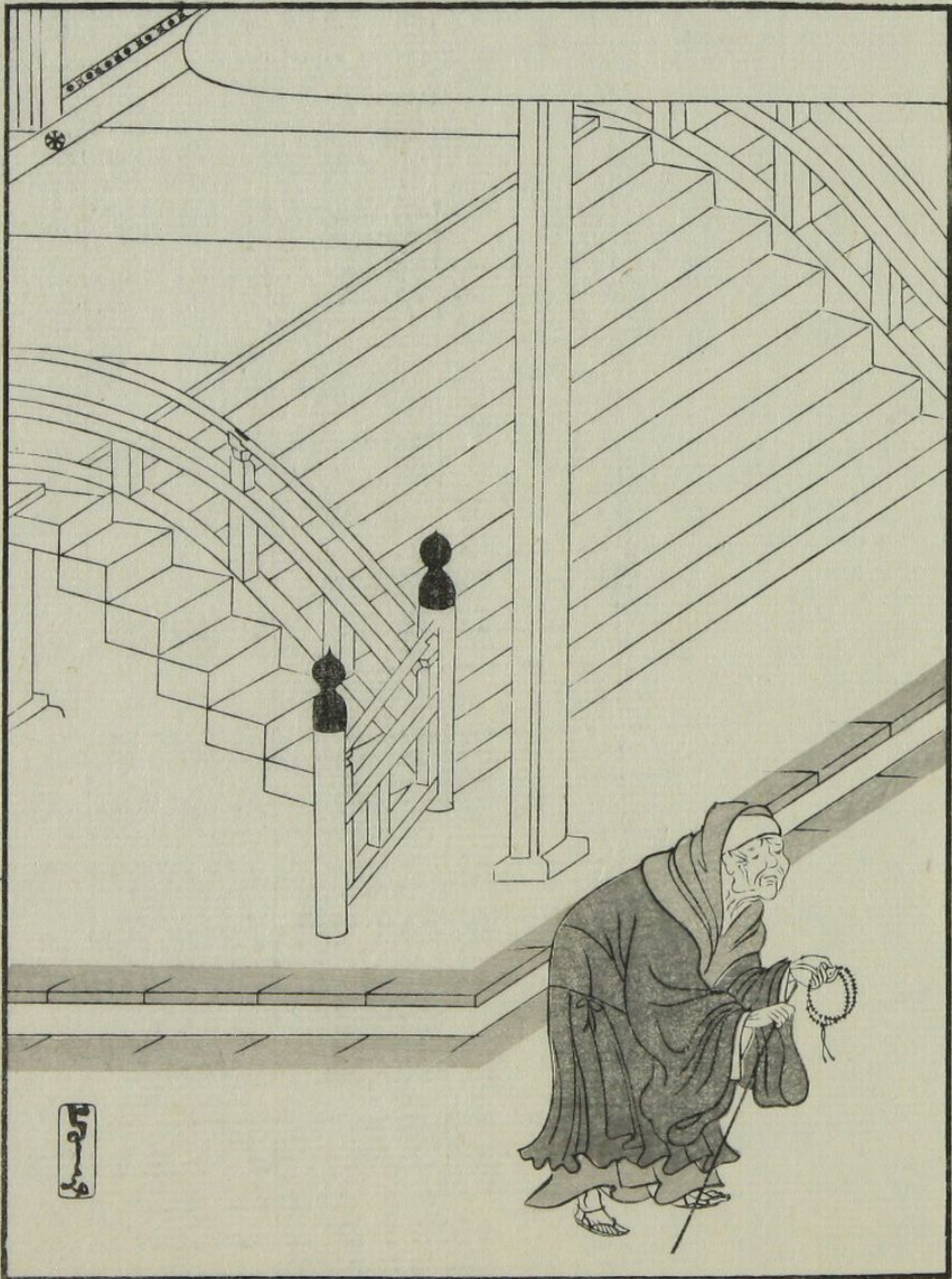
桑名家刻本奥書云。享和の頃。京師嵯峨の釋迦佛像を東都ふもる來り。戸をり開きてあまぬく。をぶませしこと何ぞし時。此縁起二まきをあつ人のかまよせて。とみに寫しむべき也。さまは筆此とちどの。をこしたるへる所もをのまきど。ふ

るき姿を残しむべきをもとにして。ことび櫻木ふゑらしめ給ふ。あづけりひとぶらハ名と花押とを自ら筆して。たのふまきの裏ふかし紙ふおせしを。あまハ繪のをゑのかもてに出しぬ。まべて寫しあやまると所々ハ。後ふみむ人あらためとぶさん事を。庶幾し給ふとぞ

躬行按ふ。此縁起應永の跋文ふ開板のよし。まは。此ど。當時刊行の書籍さへに稀なるを。まかまは。畫本を彫刻して。開板せむことハ。かたしともかときまざるべく。かしをうらまるとま。さむらり國々ふ頒とれまし。り一本二本。今のうは。ふ残らでやハあるべき。さるものありとも。世は聞はぬこそ何やし。りま。かま

融通念佛緣起

清涼寺本募本
在博物館



たもふに此印行ハあらましのふ事ゆら
ざりしあらんらさるを四百年よやちの
き享和ハ至りて摹刻の本の吹きこそたも
ひがけぬまざらまし

補真頼曰清凉寺融通念佛縁起ハ或ハ嵯峨清
涼寺大念佛縁起ともいへりさノ部見合をべ
し

補同 二卷

補目賀田汲古藏せり今ハ町田久成藏を

補同 二卷

補鹿島清兵衛藏

補摹本博物館ハあり卷尾云這融通念佛縁起兩
卷詞者石山座主景守大僧正洞院殿公賢公真蹟

無疑爲後證記之而已萬治三曆仲夏上澣古筆了
佐花押并印

補卷尾又云此融通念佛二卷之繪土佐光信真筆
也狩野右京進安信印

補卷尾又云安信奥書ハ光信とあり愚案心得
ざり事也光信よりハ時代古くて畫ハ法となき
ものら鹿島清兵衛所持文政九年三月十日摸畢
會心齋

結城合戦繪詞殘缺 一卷

補古畫目錄云結城合戦繪一卷

補本朝畫圖品目云結城合戦繪殘缺

類聚目錄云結城合戦繪各畫圖品類柳菴隨筆
此卷筆ハとしらぬど能畫ふり新吉原町娼家

山三郎が所藏あり。蓋聞乙卯十月、震火の災、小係
まで焼却せし。但續群書類從第五百七十六、結城
合戦詞をねさむ

雪見御幸圖 一卷

倭錦云、土佐經隆、雪見御幸

類聚目錄云、雪降行幸圖

補古畫目錄云、雪降行幸繪詞、古畫、藤原守信繪本

躬行按ふ、こゝ續世繼物語をのゝ御幸、古今著

聞集四卷十訓抄七卷等に、みまゝと。白川帝小野

皇太后宮へ、雪見の御幸ありしさまを、畫がけ

らならむ

補真頼曰、摹本博物館ふあり、全からば、但博物

館本より、雪中行幸とあり、卷首ふ雪中行幸の

圖を畫けり、末ハ志あらば、とふもかくふも殘
缺なり

雪夜參内繪 一卷

古今著聞集八卷云、頭中將忠季朝臣、督典侍法性寺

因法を心がけて、年月をかさぬけども、いかに

もなびらざりけり、ふ、あつよ雪のいとくふりた

まけり、ふ、いへより馬ふのりて、參内志けり、みち

のありさま、ゆきのおもしろさなど、繪ふかき

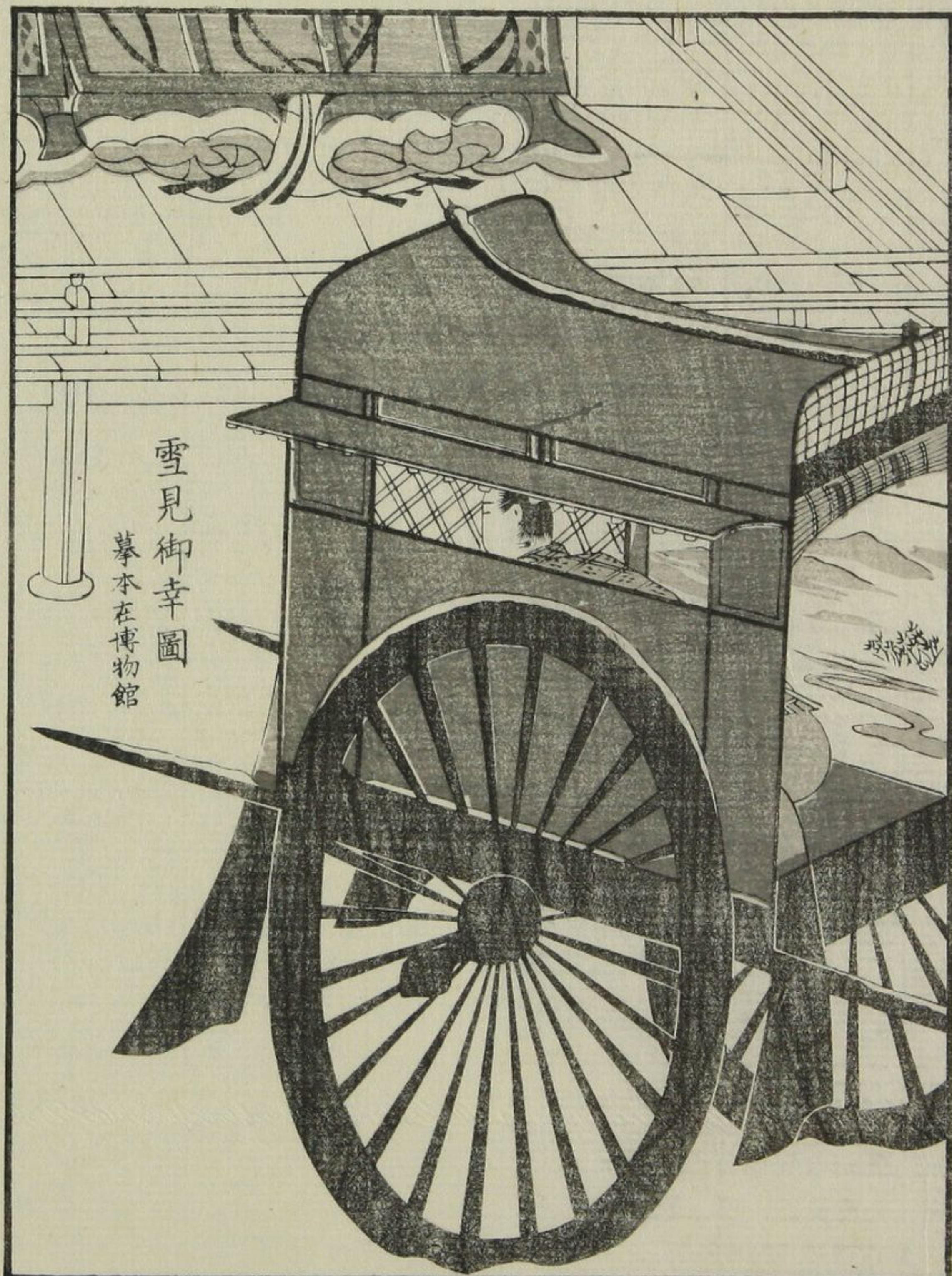
て、六位をかこらひて、彼局へなげ入させたり、督

のまけとらみ、あまきとやおもひけん、又畫ふ

や、ゆげけん、夫より逢ふけり、其後又しくかよひ

て、少將親平ハ、此をらにふん、まうけ、但朝

史亦載此文



雪見御幸圖
摹本在博物館

雪見御幸圖

增補新古今圖書集成卷十一

遊行雙紙 一卷

畫越前守長隆 無詞

躬行曰此卷の筆者ハ土佐守光貞の鑒定をり處也長隆ハ文永年間一遍聖人同時の人なり長隆の事ハ志ノ部寫生卷の下ふいへり

夢物語 一卷

倭錦云住吉如慶夢物語

融通念佛勸進帳繪

類聚目錄云永觀堂藏

補夢殿繪

補倭錦云秦致真法隆寺夢殿繪張付題号世尊寺伊房卿

補真賴曰夢殿の繪ハ聖德太子繪傳ふて法隆

寺武殿院の繪とも稱まゝものふりほノ部見合まべし

夢之記 一帖

展閱目錄 條尾 云明恵上人筆夢記一冊記中まを

小繪あり清雅と賞まべし

補弓射了繪

補今昔物語卷廿八云今昔比叡ノ山ノ無動寺ニ義清阿闍梨ト云ヒシ僧有キ若カリケル時ヨリ無動寺ニ籠居テ真言ナド深ク習テ京ニ出ル事モ無クテ年經ルマニハ房ノ外ニダニ不出シテ有様極ク貴カリケレバ山ノ上ノ貴キ人四五人が内ニモ入又ベシ然レバ萬ノ人只此ニ祈ヲ付テ為サスベキ也ケリトナニ云ケル其ルニ此

增補新古今圖書集成卷十一

阿闍梨ハ、嗚呼繪ハ筆ツキハ□□ニ書ケレドモ其レハ皆嗚呼繪ノ氣色ナシ。此阿闍梨ノ書タルハ、筆墓無ク立タル様ナレドモ、只一筆ニ書タルニ、心地ノ艶ニギハヤクズ見ユルハ、可コト嘆タタ事無限シ。然ドモ更ニ□□ニテハ不書ズ。態ト紙繼テカ、スル人有レバ、只物一ツ許ヲゾ書ケル。亦人書セケレバ端ニ弓射タル人ノ形ヲ書テ、奥ノ畢ニ的ヲナン書タリケル。中ニハ箭ノ行ク形ト思シクテ、墨ヲナム細ク引渡シタリケル。然レバ書スル人ハ不書ジトハ不云ズシテ、紙ニ墨ヲ引渡ンタレバ、異物モ否不書マジトテ、極イシク腹立ケル。然レドモ事ニモ不為テゾ有ケル。少シ僻者ニテ有シカバ、世ノ人ニモ不被受テナム有シ。只世ニ並無キ嗚呼

ノ上手ト云フ名ヲ立テ、真言吉ク習テ貴キ者トハ人ニ不被知ナム有シ。彼レガ有様吉ク知タル人コソ止事無キ者トハ知タレ。不然又人ハ只嗚呼繪書トノミナム知リタリシ

補 維摩居士鑊足公像 一幅

補 傳云宅間法眼筆絹本彩色博物館藏

補 真頼曰此像維摩會のこゝろなすべき歟。上ハ維摩居士あり下ハ鑊足公あり。地ハ淡墨をもてぬりつゞせり

補 又曰此繪もハ龍寶山塔中寸松庵の藏お

與部

よぢり不動像

宇治拾遺物語二卷云。是も今ハむらし。繪佛師良秀
 といふ有けり。家のとありより火出來て。風たし
 か。何ひてせ免けま。逃ま出。大路へ出。みけり
 云云。向ひお立ていへのやくをみて。うちお
 泣きて。ときく。まらひけり。あまれしつ。所得
 か。おとし。ごろハ。まろくかきたるもの。うなとい
 ふ。時ふと。ふらひお來たるもの。どもこ。ハ。い。う。に
 毛の。泣き給へ。う。といひけま。何であもの
 此つくべき。年頃不動尊の火焰をあしく書つ
 るなり。今ま。ばかりこそ。も。身。を。れ。と。心得つ
 あり。是こそ。志。よ。と。く。お。此道を立て。世にあらん

補 義經記繪 殘缺

おハ、ほとけごとおよく書奉らバ、おちの家もい
で來なむ。またうとちこそ、させる能もおませぬ
バ、物をバをしと給へといひて、あざらひてこ
そとてりけれ。其後よや良秀がよちり不動とて
いまに人々めであり十訓抄大異

補 吉野曼荼羅

補 倭錦云、土佐吉光、吉野曼荼羅

補 夜の寢覺物語繪

補 明月記云、貞永二年三月廿日、日來撰出物語月
次十五所不入源氏狹衣云云、此所撰夜寢覺云云

補 真頼曰、明月記の本文ハ阿ノ部朝倉物語の
條下ハ全く掲げとり就て見ればし

補 又曰、祓ざり物語とハへる繪巻物の殘缺一

卷世ハ傳ハせり、畫風隆能が畫ガけりといへ
る源氏物語ハいとよく似とるものあり、因て
按ハ、寢覺物語ハ、此夜の祓ざり物語なるおや

補 義經奥州落繪詞 一卷

補 所藏者不詳

補 真頼曰、摹本博物館ハあり、卷尾云、天保八丁
酉年冬、今模寫了、成島恒之助より見せお來る
天文頃より、古き方歟繪ハ拙おし

補 義經記繪 殘缺

補 倭錦云、義政公、義經記殘缺

補 同 殘缺

補 同書云、土佐光重、義經記切

補 同

補同書云住吉如慶義經記
補賴實公亭鞠繪 一卷

補圖畫一覽下卷云國朝書目云承久三年賴實公
亭鞠繪一卷畫圖品目同之但卷數不載

補真賴曰去ノ部ノ承久鞠繪一卷と掲げし
もの出さる見あまきべし

補豫讓繪卷

補圖畫一覽下卷云豫讓卷物

補四人比丘尼草紙繪

補燕石雜誌卷四云四人比丘尼

補義經年礼高松圖

補倭錦云土佐行光群高松

補真賴曰摹本博物館ニあり甲冑小て黒馬小

乗よりうしろに松樹あり所藏者不詳

補義經記繪小扇面

補倭錦云土佐光久義經記小扇數有

補輿地圖

補本朝畫圖品目云輿地圖梨木三位祐之摹本延
曆廿四年改定之圖

好古小録云一鋪下鴨社所藏傳ニシテ梨木三位
之祐模本ナリ延曆廿四年改定ノ圖ト云古年代記

二所載ノ圖ト大同小異也本云國六十八億一郡六
百六十町四改定數無

拾芥抄本所載圖云大日本國行基菩薩所圖也云
云本云七道州六十八北内嶋三郡六百四十一萬三

一六里町九百七十八里行程
一里町九百七十八里行程

但此圖行基僧の所圖と記したるも山城國を以て都城と云はれたるは平城都の御時のものあらざ

北野社殿神寶大圓鏡背有輿地圖肥後守加藤有正朝臣所獻

明治十二年弘亦鑄大鏡如前者一枚獻於浪華天満社

躬行曰伊勢人松浦弘近時鑄造大圓鏡二枚各徑三尺奉獻北野社及東京上野東照宮其背亦有輿地圖加北海道十一國圖八十四國

輿車圖考 十二卷

白川少將定信朝臣撰渡邊廣輝圖畫

補真頼曰輿車圖考摹本博物館にあり十二卷のもの一部五卷のも此一部をべし十九卷あり

鎧武者繪

畫工姓名不傳

貫雄曰圖八葉あり中古の体あり人物ハ大きよしして圖ハ微細ありも此を

補吉野山熊野山圖

補貝原氏大和巡覽記如意林寺ハ勝手の社より八町をうり東よあり谷のむらひあり

今ハ浄土宗あり山寺なり後醍醐帝を葬りし御寺あり御陵ハししろの山あり寺より近し大なる陵なり寺に後醍醐帝の自きざし給ふ御自身の木像あり衣冠し給ふ其厨子のとびらの内ふ吉野より熊野までの畫圖あり巨勢金岡が書しと云其上は後醍醐帝の宸翰あり御讚の詩四

増補元正書譜卷之二

首あり何も四句あり。平仄律ふかふひ韻をふめ
て真書なり又御手馴し硯箱あり
補南山巡狩録卷三云。此御陵後醍醐帝の事を
吉野の人ふ聞けり。塔の尾の御陵ハ今も歴然と
して存在し。實ハ帝王此御陵といふべし。此所を
塔の尾といふことハ昔塔のありし故あり。今も
猶礎石あり其傍ハ寶庫ありて宸翰數行を納め。
又佛龕ハ吉野より熊野ハ行く道を畫けりもの
誰人のをささふやあらむとなり

補義家朝臣像

補集古十種片像源義家朝臣像。土屋氏藏
補真頼曰。義家朝臣の像ハ。甲冑馬上の像なり。
左手に手綱をとち。右手に扇をもてり

補同

補同書云。源義家朝臣像。攝津國壽命寺藏
補真頼曰。束帶の座像なり。太刀を佩とり

補同

補本朝畫圖品目云。八幡太郎義家朝臣像。足利尊
氏畫

補真頼曰。摹本博物館ふあり。梅園奇賞ふもこ
の圖を載せ

北極元古畫譜卷二

義家朝臣像 摹本在博物館



三

補 義光朝臣像

補 本朝畫圖品目云、源義光朝臣像、多田壽命寺什

補 集古十種 部肖像 源義光像、壽命寺藏

補 真賴曰、座像束帶ふて、劔を佩き、右手に笏を
とてり

補 賴政卿像 一幀

補 繪隆信、絹本狩野探淵藏、摹本博物館ふあり

補 真賴曰、束帶の座像あり、畫上に置色紙あり、
庭の面ハまどかまらぬ、ふ夕立の空さりげあ
くを免了月らあ、の哥を記せり

補 賴朝卿像

補 東大寺寶物目錄云、源賴朝卿影一幅、宅磨法眼
筆 大佛供養之節、外護之尊、影御宮從尾州殿御寄附

曾補考古畫譜卷二

補真頼曰此の像絹本あり。今ハ奈良の人植村久道の藏とある。

補同 一幀

補畫宅磨法眼。絹本。薩州家藏。摹本博物館あり。

補真頼曰。烏帽子大鎧を着たる座像あり。右手小扇をもてり。側小兜をかけり。東大寺藏のもの甚似たり。

補同

補集古十種肖像部云。源頼朝卿像。神護寺藏。

補倭錦云。隆信頼朝公。高尾什物。

補本朝畫圖品目云。源頼朝卿像。高尾山什物。

補真頼曰。束帶の像なり。博物館小模本あり。冷泉為恭のりつせり。一本摹本小云。宅磨法

眼の筆と見せたり

補義經朝臣像

補集古十種肖像部云。源義經像。陸奥國平泉關山中尊寺藏。

尊寺藏

補真頼曰。座像。左手に扇をもち。刀を挿す。

を

補同

補同書云。源義經像。山城國鞍馬寺藏。

補古畫類聚目錄云。源九郎判官像。山城國鞍馬寺藏。

藏

補真頼曰。童形の座像あり。水干を着し。右手に扇をもてり。

補頼家卿像

補本朝畫圖品目云源賴家卿像鎌倉明王院什

補賴經卿像

補古畫類聚目錄云將軍賴經卿像鎌倉明王院藏

補集古十種部肖像源賴經卿像鎌倉明王院藏

補真賴曰束帶の座像あり

良部

補雷風神像

補畫工便覽卷一云釋空海号弘法大師今臻書畫妙所圖六道相及人物雷風二神鬼魅等者以玉眼濃細非所及言舌

補來迎佛並善導大師法然上人像

補倭錦云土佐永春來迎佛下ニ善導法然

補來迎阿彌陀三尊像

補倭錦云惠心僧都來迎阿彌陀三尊江州來迎寺什物

羅漢像 八鋪

名畫拾彙云今高山寺所在羅漢像八鋪法藹俊賀摹唐本以置也

按展閱目錄所識高山寺書畫目此像をのせび

同 二鋪

倭錦云巨勢有久羅漢二幅

補同

補季瓊日録云寛正四年七月十日雲頂院昭堂後門壁畫觀音并羅漢今晨安置之判畫又書年号月日名也

補同

補新編鎌倉志卷三建長寺涅槃像一幅羅漢畫像八幅并兆殿司筆

補同

補倭錦云巨勢相見羅漢天人アリ

補同

補同書云土佐行光羅漢

補同書云土佐光信羅漢

補同 一幀

補相摸國箱根早雲寺藏禪月大師筆舊藏大德寺

補政矩曰此の一幀ハ十六幅の中此殘缺妙畫

かり

賴豪草子 一卷

畫圖品目云畫光信詞一條禪閣殘缺

倭錦云土佐寂濟賴豪草子詞兼良公能阿金一全阿若

州忠英

古筆家鑑定書云兼良公代第廿六東山同朋能阿彌

北畠山遷賀金阿彌中頃山門忠英東塔東右各

真蹟無疑者也午初冬古筆了意

補 春村曰。山門僧傳のうち。存せしもの此外まじ

躬行曰。予が見たる處。故新見伊賀守藏。古卷ふして善畫あり。舜祖賴豪等數人の傳を畫く。山門僧傳と題せり。按よ賴豪ハ既よ寺法師なり。山門僧傳と名づくべからむ。以て疑を欠く

補 真賴曰。賴豪草子或ハ山王靈驗記繪ともいへり。さノ部見合をべし。摹本博物館ふあり

賴印僧正繪詞 二卷

補 圖畫一覽下卷云。畫圖品類云。賴印僧正行狀繪詞二卷。室町將軍の項ふ書しものあり。畫も存まじあり
柳庵隨筆云。詞存し畫逸ま

躬行曰。賴印僧正ハ。鶴岡八幡宮の別當。至徳頃の人ふり。續群書類從第二百廿四有賴印僧正繪詞

補 良辨草紙

古畫目錄云。良辨草子。摹本住吉内記藏類聚目錄載之
貫雄曰。曾て殘缺を見。文明頃のものふして。畫法妙ふらび

洛中洛外圖屏風 六枚

刑部大輔光信筆

同

倭錦云。具慶。洛中洛外圖屏風。卷物數有
補 真賴曰。具慶のゑがけ。洛中洛外の畫ハ數

種あり一本博物館及奈良の興福尼院にも藏せり

補同 一雙

補繪光信所藏不詳

補真賴曰摹本六枚博物館小何り車樂印地打等の圖あり

補來迎寺十界圖

補圖畫一覽下卷云傳云凡三十幅

補貞幹曰僧惠心の結構ふして巨勢金岡所畫と云ふ道風真蹟の和漢朗詠集と伯仲を蓋惠心是ふして金岡ハ非なり

補高年曰九想十界圖修理亮光秀畫江州坂本來迎寺什と是なるべし

補真賴曰委しくハ志ノ部十界圖の條よ云へり見合すべし

補洛陽靈地名所繪

補東鑑卷九云文治五年九月十七日云云次觀自在王院院号阿彌基彌衡妻宗任建立也四壁圖繪洛陽靈地名所佛檀者銀也高欄者磨金也

補真賴曰洛陽靈地名所の繪ハ觀自在王院壁畫ともいへるハノ部嘉勝寺觀自在王院壁畫の條見おるをべし

補羅城門の鬼の圖

補畫工便覽卷五云真信初轉信俗名源七古法眼元信三男仕將軍義澄公号松榮叙民部卿法眼以之為嫡家馳于丹青之妙謂糸榮中年豊之後州赴

大友館岩嶋明神船中間近拜之。因茲寄船詣社祠。詠致景誠无双地。然俄暴風降經二三日。雖過十日不得風雨止。徒送類日。故凌晴間詣拜殿有古板。新之而舟中為祈願。畫於羅城門鬼圖備神前。須臾空晴順風。任于意出船。自是雖海路遙。无程豐後着。為丹青規模矣。榮早年父元信用印字。後新易印。壺印以名。後陽成帝文祿元年。冬十月廿一日卒。壽七十五。後奈良院至延寶元年百四十五有餘

補朗然居士像

補新編鎌倉志卷三建長寺朗然居士畫像一幅。開山自筆ノ賛ナリ

補真頼曰。開山ハ即道隆ふり。大覺禪師と謚を

利部

補龍猛菩薩像

一幀

補高野山西南院藏。畫工不詳。摹本博物館あり。

補真頼曰。京師大通寺の真言八祖あり。ちあり。像あり。似あり。ちあり。ひあり。さあり。し

兩界曼陀羅

二鋪

平家物語卷三大塔建云。娑婆世界のあり。ひあり。出あり。おあり。とて。高野の金堂に曼荼羅をかあり。まあり。けあり。るあり。が。西あり。まあり。んあり。どあり。らあり。をあり。バあり。常明法印といあり。ふあり。繪師あり。かあり。しあり。せあり。らあり。るあり。東曼陀羅をバあり。清盛あり。うあり。むあり。とて。自筆あり。かあり。しあり。まあり。けあり。るあり。が。八葉の中尊の寶冠をバあり。いあり。ろあり。どあり。思あり。まあり。きあり。まあり。むあり。我首の血を出あり。いあり。てあり。うあり。れあり。けあり。るあり。とあり。をあり。聞あり。えあり。し

同

二鋪

東寺御影堂具足目錄云。畫工姓名不傳。種字金泥。紫覺性金臺寺御室筆。

補東寺寶翰古器目錄云。弘法大師真筆。兩界尊影二幅。一何了ハ也。ハ是歟。但別物ハ了ハ也。

補同

補名畫拾彙卷一云。覺性法親王。鳥羽院皇子。号紫金臺寺御室。嘉應元年十二月十一日入滅。四十能畫圖。高野山御影堂。兩界曼荼羅。所親筆也。

同

同書云。道覺法親王。号西山宮。後鳥羽院皇子。青蓮門主。能畫。鎌倉鶴岡等覺院藏。兩界曼陀羅。所親畫也。

同

倭錦云。秀衡兩界曼荼羅。常州行方郡西蓮寺什物

同

展閱目錄條尾云。惠日房成忍筆。

補同

補慈覺大師傳云。八月到長安城。按唐開成五年中界而到。大興善寺翻經院。謁對元政阿闍梨。請以為師。儲備供具。入灌頂道場。奉供諸尊。始學金剛界大教。更受五瓶灌頂。及圖寫金剛界大曼荼羅。時先師夢中歡喜曰。善哉々々。汝圖寫此曼荼羅。將來示我。

補同

補吉野吉水院寶物目錄云。兩界曼陀羅。後醍醐天皇御真筆。但界畫并龍。紋。小野文觀僧正筆。洛陽東福寺四代證明禪師之裏書アリ。

補同

補人車記云。久安五年十月廿五日。今日故姬宮并北政所周闕御法事。正日等料。於女院被奉始御佛經。姬宮御法事料。來月十一日。兩界曼陀羅各一鋪。智順法眼御衣絹一百尺許。料物千五百足。

補同

補長秋記云。保延元年六月廿七日。依召參女院。仰云。五宮御腦逐日有增氣。今夜書願書欲讀舉。急相量可書進者。仍書之。略中一可奉於高野奧院圖繪金字兩部曼陀羅三部經。其次修理趣三昧三七日事。可令於東寺三七日間修理。趣三昧事。右大願等為第五親王除病延命。所立申如件。保延元年六月廿七日。正三位行權中納言兼太皇太后宮權大夫源

朝臣師時。依卒示不廻愚案。唯老筆書之。

補同

補人車記云。仁平二年四月九日。今日於高陽院被奉始法皇御賀御佛經等。略中机前東敷。莖一枚。安兩界御衣。絹紫色綾付張形各二幅長四時。刻申。夏由出御敷。相源僧都着座。發願啓白了。執灑水散。執自給御衣絹。次繪師知順法眼。着絹參進奉始之。以水圖之。先始台藏。次金剛界。依僧都說也。云云。略中御佛料金三兩下。給智順云云。六月十日。依女院仰。相具佛師法眼智順。向山座主白川房大僧正奉始一院御賀料兩界曼陀羅御衣絹紫色綾。兼賜智順。付張形令隨身。淨衣同給之。略中座主被出會。智順着淨衣近候。次座主發願灑水。次依命奉始先胎藏。次金剛

界云云次佛師撤御佛退出座主被命女院御返事
即歸參申事由了件兩界去四月九日於女院御所
金泥佛經等相具被奉始之而同月下旬智順住房
燒亡之次不能取出燒失了仍今日更奉始之重不
勤日時只尋問吉日被行也且是入道殿仰之泥料
全銀并書料重被下行了

補同

補同書云仁安元年九月十五日有每日御佛經供
養_{略中}母屋中央頗寄西北立黑漆平文佛臺奉懸兩
界曼陀羅各一鋪_{佛像圖之在錦線賴源法橋圖之}
云云

補同

補為房公記云嘉承二年九月一日本院相當六七

日仍修御誦經如例又被供養兩界曼陀羅□紙法
華經一部墨字法華經百部曼陀羅者是平生所令
圖繪給墨字經御藥之間為除病延命所被書寫千
部內云云法印賢暹率讚衆廿口就密教供養之

補同

補東鑑卷十四云建久五年十一月十三日庚子上
總介義兼於鶴岡八幡宮供養兩界曼陀羅二鋪導
師當宮別當法眼題名僧六十口也施主着布衣在
迴廊伊豆守以下門葉源氏兩三輩同列座又源高
重_{安房判官代}藤原教重_{判官三位代}等取布施云云十四日
辛丑上總介義兼以因幡前司廣元申云昨日所供
養之曼茶羅者將軍家御祈禱也者仍可奉納宮寺
之旨被仰別當法眼圓曉則被安置于上宮東廊云

云

補同

補古今著聞集卷二云、三井寺の公胤僧正、けちえんのよめ、小四十九日の導師をのぞいて、兩界曼荼羅并阿彌陀の像を、くやうとしてけり云云

補同

補太平記卷三十九行光嚴の法條云、是より高野山ヲ御覽ゼント思召テ云云、サテ御山ニモ御著有シカバ、大塔ノ扉ヲ開カセテ、兩界ノ曼陀羅ヲ御拜見アレバ、胎藏界七百餘尊、金剛界五百餘尊ヲバ、入道太政大臣清盛公手ヲ書タル尊容ナリ、サシモ積惡ノ静海、イカナル宿善ニ催サレ、懸ル大善根ヲ致シケン、六大無礙ノ月晴ル時有テ、四曼相

即ノ花發クベキ春ヲ待ケリ、サテハ是モ只一向ナル惡人ニテハ無リケルヨト、今爰ニ思召知セ給フ

補真頼曰、世小いむゆる頭血曼荼羅こまなり、とノ部まノ部を見合をべし

補靈山寺扉繪兩界曼荼羅

補山城名勝志卷十四の靈山寺云國阿上人繪傳云、傳聞此本尊釋迦如來ハ、人皇五十九代寬平法皇御宇、紫雲小乘して天くだる給ふ靈像なり、奇瑞あらざるゆゑ、勅使をくどして、御建立ありし御堂なり、正面の額ハ、小野道風ガ筆跡、佛前の扉の繪、兩界の曼荼羅ハ、圓信ガ筆裏の戸の五大尊四天羅漢ハ、金岡ガ筆なり

補同扉裏繪五大尊四天羅漢像

補同書條同云傳聞云云裏戸の五大尊四天羅漢八
全岡が筆あり

離宮八幡圖 一鋪

倭錦云巨勢有家離宮八幡圖

良道琵琶撥面の繪

建曆御記云俊房云良道琵琶移玄上彼撥面文不
可違彼唐人打毬形也

龍虎琵琶撥面の繪

撥面畫着色全身龍虎雲樹杵築大社神寶也蓋聞
後醍醐天皇以北條氏誅伐之御願文竊納於此胡
琴ノ槽中所奉獻云

補楞嚴會圖

補畫工便覽卷三云智首座善丹青云云嘉曆元年

秋七月智首座寫師照師因自為贊矣同九月九日
智亦繪楞加勝會圖乞贊云云

補皇朝名畫拾彙卷二云智首座虎關之徒嘉曆元
年七月寫師照練因自為贊矣同年九月智亦繪楞
嚴會圖乞贊

補龍宮城圖

補元亨釋書卷九云釋祚蓮白鳳八年十一月皇后
病勅建藥師寺祈冥救時不知營構之規蓮入定見
龍宮之伽藍出定錄奏造式帝大悅以故藥師寺宏
壯麗妙云

補良馬圖 一卷

補圖畫一覽下卷云國朝書目云良馬圖一卷同品類

補古畫目錄云良馬圖一卷

補里雲圖鈔 二卷

補圖書一覽下卷云書籍目錄云里雲圖抄二卷藤原朝隆撰

補陵王童舞圖 一幀

倭錦云春日行秀春日山童陵王

補林丘寺宮杉戸の鯉の繪

補倭錦云住吉具慶京林丘寺宮杉戸鯉畫

補量榮法師像

補天陰語錄讚云春谷量榮法師像註春谷量榮法師其先王孫也事慈照相公者久矣相公曾命畫工圖翁之面顏其寵眷可知焉延德四年壬子五月廿五嬰二豎以逝矣實五十四也孝子某不勝追慕

□畫工所寫以作全像也季秋初五丁卒哭之辰介于人需題一語聊擬所傳聞者以塞責矣

利久居士像 一幀 倭錦云土佐光吉利久肖像贊春屋

增補古今圖書集成

留部

類聚雜要抄現存

六卷

中園相國公賢撰

丹鶴本與書云。茲有類聚雜要抄者四卷。乃園器制舊式之書也。但未識其著述之為阿誰耳。竊按嘉吉二年康富記云。有中園殿御抄。類聚抄者五六十卷。現在纔二三十卷。其餘可尋寫云云。以是觀之。書名似自有相合者。疑此書歟。而今所得四卷。圖象雖頗精。而猶簡古難悉辨也。嚮者前關白兼輝公。嘗特憂之。以御厨子所預從四位下紀宗恒能詳於舊式。而試命之令校正焉。乃因第四卷之所記。以按圖舊式。而更分第四卷。以為二卷矣。然餘卷尚未校正。予竊歎之。曾以稟於公。欲繼質之。公甚悅。以稱許焉。予於是

增補古今圖書集成

復使宗恒再校正餘卷以成書總為六卷矣然後此書所載品彙制度即可指掌觀既而由逍遙院內府實隆公之本重加一校求藏延嘉書庫以為家珍云爾元祿十七年四月十一日兵部卿文仁親王跋之群書類從本第七十四百與書云此抄四卷以新院御本第一親長卿筆第二道宣流卿內書寫校合了第四自本所持之先考御筆所々全部數年雖有望不得之今蒙恩許歡悅無極深籠箱底不可他見矣寬文第十三孟春社日獻納散人押

畫圖品目云畫土佐光成挂宮御藏
元幹曰元五十卷歟散佚して今存もるもの僅
六卷其外尚仁親王被加與書本一卷車圖一
卷都て八卷の外を不見坊間流布の寫本ハ四

卷の群書類從まゝ四卷の外を不載

補真賴曰類聚雜要抄摹本六本博物館にあり

礼部

補麗景殿女御繪合繪

補古今著聞集卷十一云。永承五年四月廿六日。麗
 景殿女御不繪合ありけり。彌生の十日あまりの
 頃より其沙汰有けり。春の日は浅きとふく
 らをよりハ。常ふらぬいと事。御前不御覽せ
 さをぢや。びろしよりきこゆる花合ハ。散てふ
 き根ふかへりぬまバ。ふひ戀し。草合ハ。尋て木
 の所ハ。返しやまバ。名残りさし。哥林とにいふ
 ふるよりハ。萬葉集までハ。あゝるもおよむ。古
 今後撰等。青柳のいとくまらへし。みまどもあ
 る。紅葉の錦をいどを心もふらき。色なきとも。
 左右をさだえて。哥のこゝろ。よみ人を繪ふかき

て合せらるけりいぬしへの歌のふるきにそへ
る今のこと葉の浅きがまじりたらんめづらし
くやとて哥三をつらぬけり題ハ鶴卵の花月小
ふん侍りけり此項ハ郭公などこそあるべきを
大殿の哥合の題小侍をバとて鶴あかへらまけ
る也

補 冷泉院繪圖

補 小右記云長和二年三月卅日冷泉院神泉苑繪
圖則故常所畫送皇太后宮大夫許賢俊為令傳奉左相
府昨日車中所談也有可見之答仍奉送耳皇太后
宮大夫返報云只今可傳奉太優美物者

補 歷覽諸寺體勢圖

補 吏部王記云延長九年六月九日夕詣中務卿宮

主君語次述云近曾醍醐上座延賀法師來陳云此
寺先帝御宇時延賀奉詔歷覽諸寺體勢擇定善者
作圖上奏即依此圖定堂宇房廊數可採進其材木
等之由被下官符於諸國已畢

歷代帝王宸影 一卷

畫工姓名不傳記云自鳥羽法皇至陽光院野守
粉本在官庫

躬行按陽光院贈太上天皇諱誠仁後陽成帝御
父天正十四年七月廿四日薨

補 本朝畫圖品目云歷代帝王御影

補 博物館藏摹本卷尾云右宸影一卷狩野祐清相
傳古摹也卷之始ニ正護院殿ト記セリ按ニ天保
八丁酉年三月祐清ヨリ借得而手摸晴川院法印

補真頼曰。歷代帝王宸影。ありひい。歷代宸影と
もいへり。博物館に模本二種あり。見あをまべ
し

補蓮聖居士像

補集古十種肖像部蓮聖居士像。久米寺藏

呂部

六道繪

後愚昧記云。貞治二年二月十六日。任承法印持來
聖護院宮狀云云。仰任承此次持來。金岡筆六道繪
見之。事体無比類重寶也。此繪聖護院坊官源意法
眼所持之。彼法印所傳借也。十八聖護院返事并六
道繪遺任承了

同

塵袋卷五云。南都ニ常明ガ書タル。數卷ノ六道ノ
繪アリ。畜生道ノ分ニ。土蜘蛛ヲカツラノ網ヲシテ。
トラヘタル事ヲカケルニハ。オソロシゲナル大
蜘蛛ヲ書タリ

補同



六波羅行幸圖
摹本在博物館

繪本考古書正目卷十一



繪本考古書正目卷十一

補 畫工便覽卷一云。釋空海号弘法大師。令臻書畫妙所圖六道相及人物雷風二神鬼魅等者。以玉眼濃細非所及言舌粗佛像而已也

補 六波羅行幸 一卷

補 圖畫一覽下卷云。六波羅行幸一卷

補 古畫目録云。六波羅行幸圖類聚古畫目録亦これ小同じ

補 本朝畫圖品目云。六波羅行幸一卷。畫土佐光顯

補 真頼曰。六波羅行幸といへるハ。保元平治物語の殘缺ふること。既小ほノ部ふいへり

補 貫義曰。六波羅行幸ハ。光顯の筆ふハあらざるして。慶恩ふるべし

補 六波羅合戰 一卷

補 古畫目録云。六波羅合戰圖一卷。土佐古將監原

本橋金六藏

補 真頼曰。古將監詳ならび。倭錦を按むる小。慶恩の弟ふ春日左近將監行長あり。こまを古將監といへる歟。さきど六波羅合戰も亦保元平治物語のちのを此なるべけまバ。山名貫義氏の説ふ據らバ。慶恩の筆ふるべし

六祖傳衣圖 三幀

展閱目録寺條云。後水尾院御物。土佐光起畫。六祖

傳衣鉢圖三幅塔頭三秀院所傳

補 鹿苑院殿五條八幡參詣圖

補 類聚古畫目録云。鹿苑院殿六條八幡參詣圖

補 真頼曰。類聚古畫目録ニ。六條とあるハ。五條の誤ふるべし。ゆゑに今改めつ

六種圖考

藤貞幹纂輯第一輿地第二都城第三飲食第四錢幣第五印章第六碑碣第七古瓦附錄

六孫王經基像 一幀

訖磨榮賀筆絹本藏未詳

補六孫王像

補本朝畫圖品目云六孫王像畫者不知新見家藏

補真賴曰座像ふり予模本を藏せり博物館ふも摹本あり博物館模本ふ記して云經基公御影一幅絹本宅間法眼榮賀筆と住吉内記廣行副狀あり青山侯所藏の由其後新見賀州所藏ふふる裏書ふ云永正十一年甲戌三月廿八日此影像破損之間仰表背師玄泉奉修復畢大法

師清澄奉行と見込と

鹿苑院將軍像 一幀

展覧目錄高尾云鹿苑院殿畫像有應永廿一年甲

午九月六日佛日山怡雲某讚

倭錦云春日行秀鹿苑院殿像色紙アリ京高尾什物

補真賴曰鹿苑院殿ハ足利義満より義満の像數種ありおの部を見合をべし

和部

和歌曼茶羅

一鋪

古今著聞集五卷云。祭主神祇伯親定。伊勢國いそ信
 といふ處に堂をたてし。膳西上人を請して。供養
 をとげし。云云。此上人歌を好まをけれは。時
 の歌よま常によりあひし。和歌の會ありけり。倭
 歌曼陀羅を圖畫して。過去七佛をらき奉り。又卅
 六人の名字をうきあらませり。また諸惡莫作衆
 善奉行此文をかゝまじり。色紙にたあり。義房公
 ぞ清書せらる。又件の曼茶羅ハ。本寺の重寶ふて
 有べきを。いゝありけり。事ふう神祇大輔親仲造
 宮のとき。土佐權守親經がもとより。來りけり
 を。錢廿貫ふて。うひとぶめてけり。相傳して親守

入道ゴもトあり。建長元年九月外宮遷宮ノ予
參向ノとき此ヲむナらニをコひ出してをり奉
りて。是ヲ志ス也。

本朝畫史云雲居寺僧騰西能和歌曾圖和歌曼陀
羅其圖本往々有之

躬行曰畫史此條著聞集ノよりて記せりとみ
ゆヲを。本書和歌曼陀羅騰西法師の親らかけ
りとも聞込ぬヲを自畫ノ如く記せりハ誤らら
む

往生繪 二帖

長秋記云保延元年七月廿一日臨晚參院云云給
往生繪二帖

補同

補康富記寶徳三年十月十三日今日仁和寺本願
寺律院相傳之法然上人之自筆之往生之繪被持
參仙洞有叡覽 又持參内裏同今日叡覽云云
壽永源平合戰之後熊谷次郎入道蓮生奉逢法然
上人尋往生地儀之時上人來迎之粧書繪給蓮生
了其後熊谷代々相傳了近來此繪本願寺相承之
故被仰寺家有叡覽云云

補王子權現縁起 三卷

補本朝畫圖品目追加云王子縁起三卷

補古畫目錄云王子權現縁起狩野主馬介尚信筆
江戸王子金輪寺藏

補古畫類聚目錄云王子權現縁起繪
補真頼曰摹本三卷博物館ノあり詞書筆者ハ

鈴木權兵衛といふものありといへり。此繪詞若一王子縁起ともいへり。因てふノ部もい

補 王子稻荷縁起

補 本朝畫圖品目云。武州王子稻荷縁起。畫狩野尚

補 若草双紙繪

補 燕石雜誌卷四云。若草双紙

和 田合戰繪 殘缺

倭錦云。土佐行廣。和田合戰武者圖

和 漢抄屏風

古今著聞集一卷十云。能通。繪師良親。小屏風二百帖。繪をかゝせりけり。略中和漢抄ハ。屏風ハ中

卷水を書き。上に唐繪をかき。下にやまと繪をのきたるけり

躬行曰。山井能通朝臣。畫師良親。少事ハ。坤元録屏風の所ふ。いさゝら記したり

若竹鶏屏風 二帖

倭錦云。土佐光元。若竹鶏屏風

補 和漢童兒遊戯繪屏風 一雙

補 畫者狩野興以。所藏者不詳。模本博物館にあり

補 真頼曰。畫様いさゝら。若佐又兵衛の風。似たるものあり

和 漢朗詠集蘆手繪

畫圖品目云。世尊寺伊行朝臣朗詠集料紙。蘆手下繪。脱名

躬行曰。高士春樹。北邊隨筆に。永曆元年四月二日。司農少卿伊行所畫。故貞幹所藏のよし。ふて載る。あし。繪二葉ハ。即此朗詠集の下繪を誤傳へし。て畫工ハ。誰ともあらぬ成べし。但從四位上宮内少輔伊行朝臣ハ。宮内大輔世尊寺定信朝臣の男。永曆中の人。司農ハ。宮内から名也

世尊寺伊行朝臣古畫譜卷二

和漢往生傳繪 一鋪

本朝畫史云。四天王寺別當行慶撰和漢往生傳使
尊知法眼畫九品往生之人。入道相國賴實公九人。
各令詠歌一首。又令管宰相為長卿賦四韻唐詩。色
紙形書者。大納言教家卿也。

和漢將軍影 十二鋪

吾妻鏡云。建曆二年六月廿四日。將軍家入御和田
左衛門尉義盛家。御儲甚丁寧。以和漢將軍影十二
鋪。為御引物云云。

為部

韋駄天像 一鋪

倭錦云。小川僧正。韋駄天印アリ

尹大納言雙紙 二卷

畫尹大納言室。詞大納言師賢卿。白描

名畫拾彙云。尹大納言師賢卿室。右府家忠公女容儀端婉。

極於繪書花結詩歌管絃之道。

躬行曰。此卷棚機祭の處二段。月見の所二段。各

小卷とせり。白描にして。書畫とも。甚殊勝な

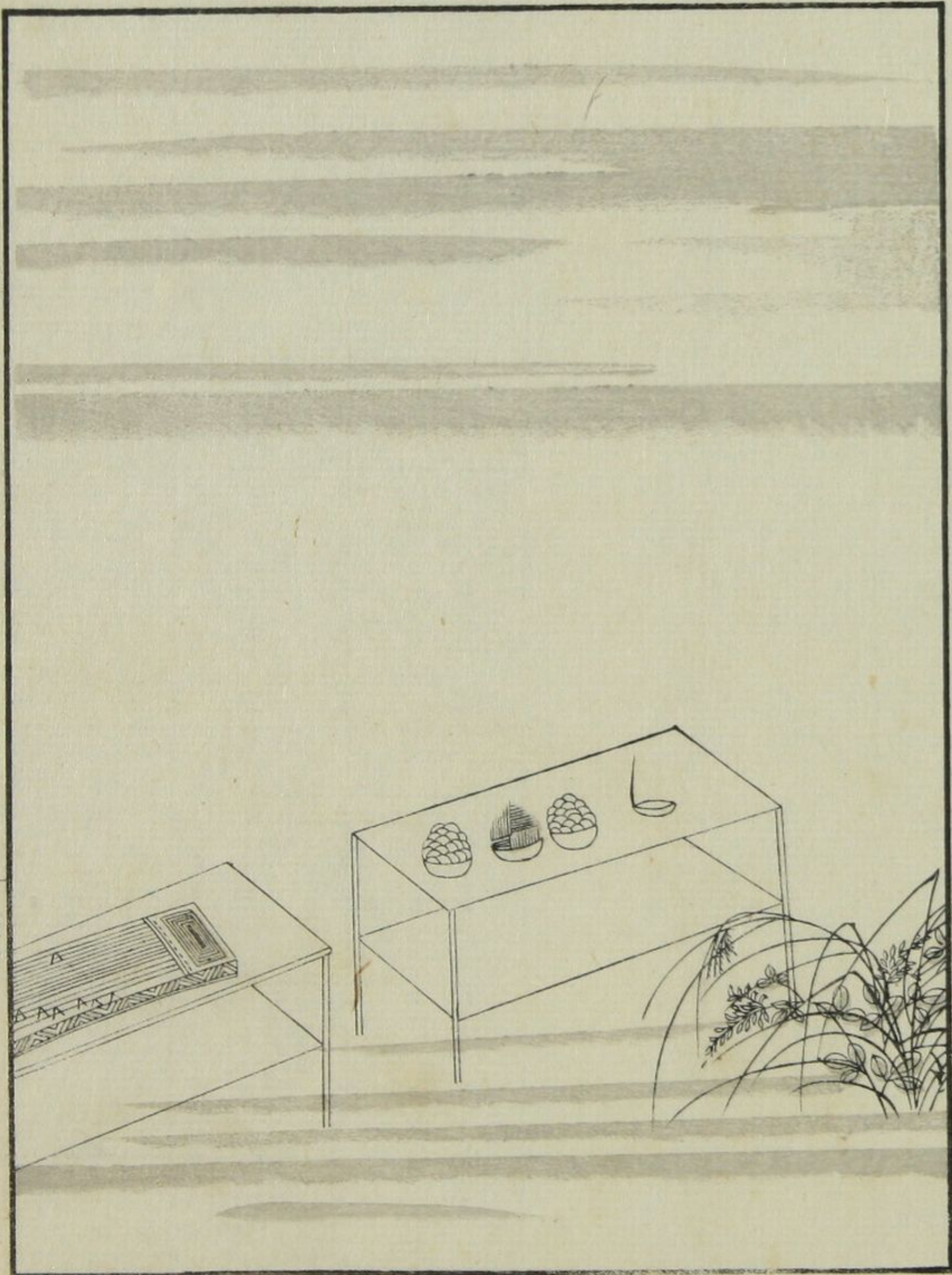
り。冷泉為恭曾て愛玩せり。其後所在を志らば

補真頼曰。摹本博物館あり。卷尾云。右卷物二

卷無之名。尹大納言師賢卿真蹟。京大通寺中實

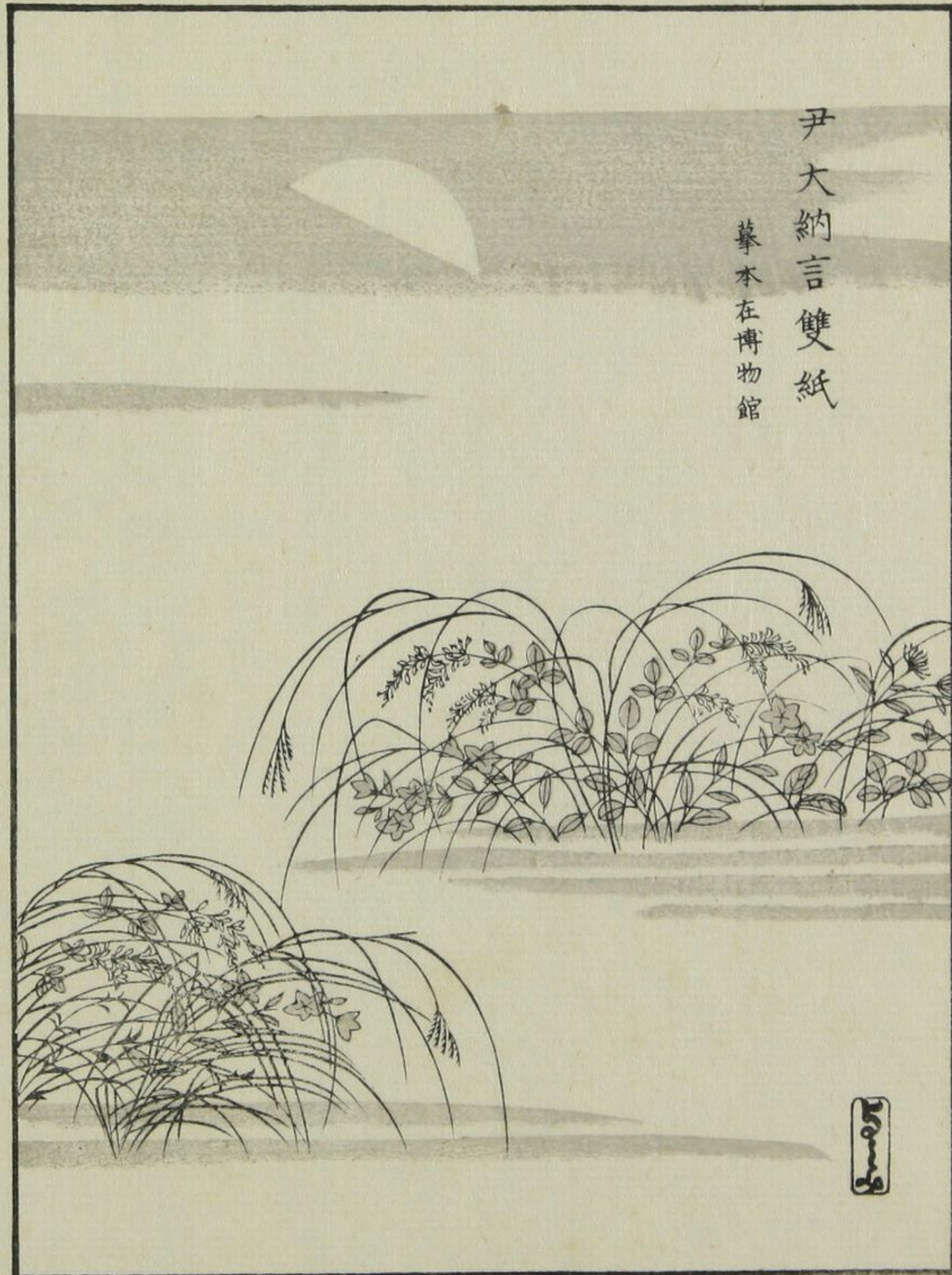
法院所藏と見ゆ。

留南考古書並有卷一



五十四

尹大納言雙紙



尹大納言雙紙
摹本在博物館

509

補又曰此の卷ハ師賢卿みづのらのうへを
ふりけりものありといひはとへたり

井手玉川大堰川屏風 二帖

粟田口法眼隆光畫

補院宮及私第圖 二卷

補裏松固禪編集

補真頼曰院宮及私第圖ハ宮室圖三種ありノ部ふ掲りげき

柏木政矩摸本を藏せり予一覽のついでふ目

録を記したきたるバ今此ふ掲げて學者の便

とを

上巻目次

室禮指圖 東三條殿圖 又 又

又 又

東三條殿寢殿圖 又 又庭指圖 又

台記東三條殿圖 又 兵範記東三條殿

圖 又 屏風室禮圖 障子帳圖

寢殿裝束圖 小野宮殿差圖 建内記下

御所圖 門室相承有職抄寢殿裝束圖

明月記鳥羽殿圖 殿記二條御所和歌所圖

人車記法住寺殿御幟法堂圖 備中國

新見庄地頭方政所屋圖 年中行事畫大臣

第圖 兵範記宇治縣小松殿圖 王海兼

實公第圖 山槐記經房朝臣第圖 山槐

記關白殿六條堀川第圖 明月記織戸圖

園太曆公為第圖 西園寺第圖 管見

記花山院第圖 長秋記小六條殿圖

下卷目次

本槐門新槐門圖 大臣第宅古圖 兩中
 門古圖 又 年中行事畫仙洞圖 又
 後京極殿寢殿圖 勘仲記高山寺殿寢
 殿圖 又 勘仲記猪熊殿寢殿圖 又
 明月記定家卿第圖 山槐記花山院大
 相因亭圖 山槐記入道大相因六波羅亭圖
 山槐記六波羅亭御產所圖 台記左大
 臣冷泉亭圖 山槐記關白基通公第圖
 明月記大宮大納言樋口第圖 山槐記右中
 辨經房朝臣亭圖 兵範記白川殿圖 又
 玉海兼實公第圖 又 年中行事畫
 寢殿圖 石山寺緣起畫式部少輔國能第圖

奈與竹物語陰陽師文衡家圖 奈與竹
 物語鳴渡少將第圖 室町殿寢殿圖 證
 空繪詞三井寺智空坊圖 盛秀朝臣記關白
 第圖

惠部

惠心僧都縁起 一卷

類聚目錄云。鳥羽僧正筆高山寺所藏

倭錦云。土佐寂濟惠心縁起

躬行曰。此縁起。高山寺書目及展閱目六等不載

之

補 惠美押勝雙紙 二卷

書畫筆者未詳

補 躬行曰。繪五段あり。道鏡法師繪詞と。同物歟

繪師雙紙 一卷

左京權大夫信實朝臣書畫一筆

好古小録云。畫信實結構俗氣ナシ。眼ヲ悦シムベ

シ

補本朝畫圖品目云。畫師草紙一卷。畫及詞書信實朝臣

補同書追加云。繪師草子原本。古筆了伴所持。嘉永戊申獻上之沙汰

補圖畫一覽上卷云。繪師草子一卷。左京大夫信實朝臣書畫一手殊勝ノ畫ナリ。古筆了伴所藏ナリ

補古畫目錄云。繪師草紙。信實筆。住吉藏

補同書頭書云。繪師草紙。古筆了伴藏。天保十四年水野越前守取入

躬行曰。此卷古筆了伴所藏也。後幕府不獻せり。海とある大城田録不係り。卷子烏有となせり。可嘆惜。但丹鶴叢書中有摹勒不足見

補了悦曰。了伴弘化五年戊申二月廿三日。左京

權大夫信實朝臣筆繪師草紙。詞書同筆一卷を幕府不獻をこの卷いりありにらん。世に傳

榮花物語

駒競行幸卷

殘缺

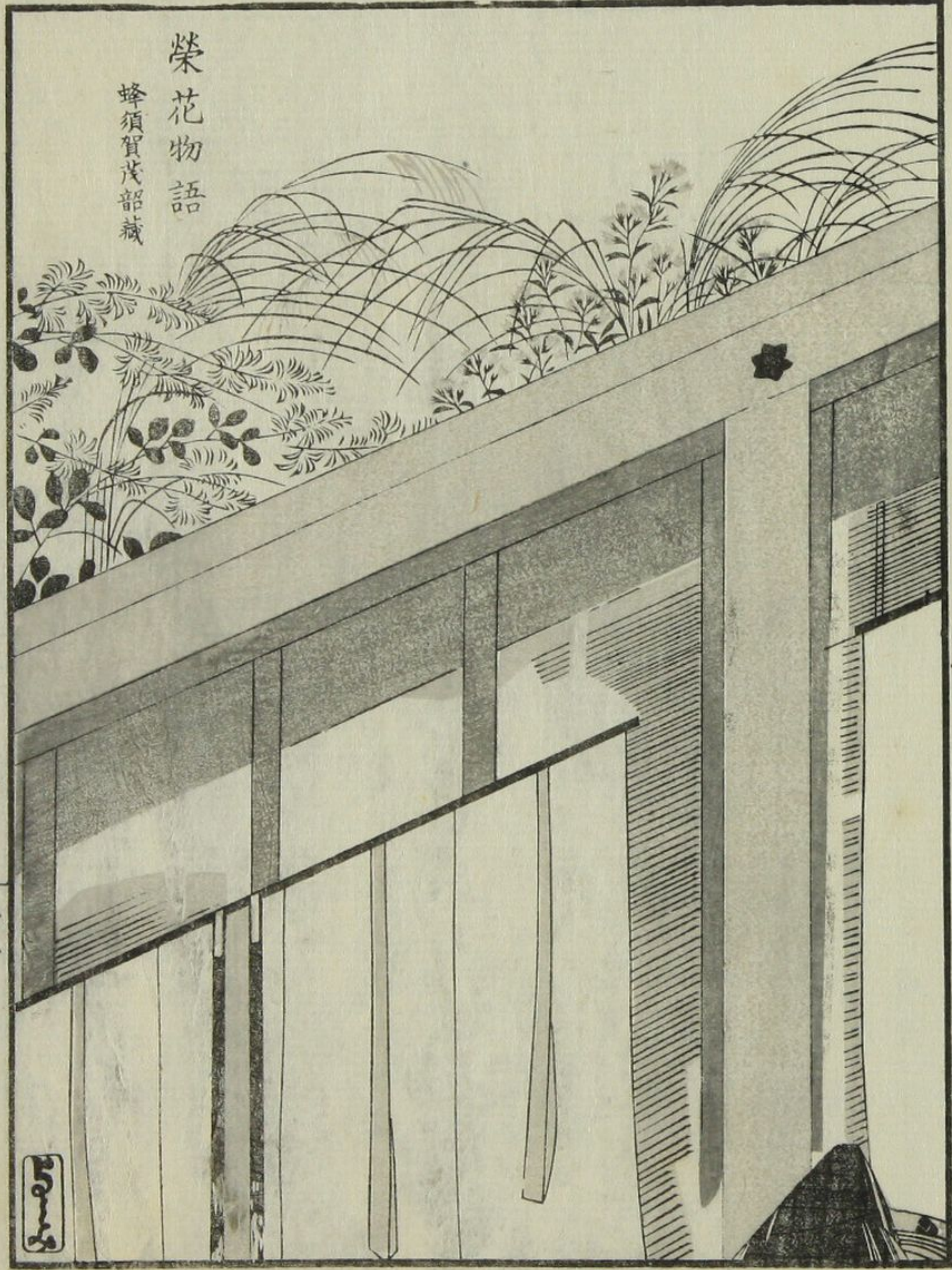
太皇太后宮行啓卷。東宮行啓卷。畫飛驒守光秀。詞筆者未詳。或云清水谷實秋卿一說畫光時。詞清水谷公藤卿

躬行曰。狩野養信榮花物語駒競行幸卷考。引建永二年五月十四日明月記云。御堂障子召付畫

可令書之由。夜前有仰事云云。又仰云。以尊智大輔

兼康内舎人可令書晴方。以康俊信能光時八幡平三可令書

襲方。又六月十七日今夜仰云。大井川以光時可令畫者。此間書行幸儀也。大略以承保記委示合了。檢勘代々野行幸舊記斟酌而已。とあり小よ



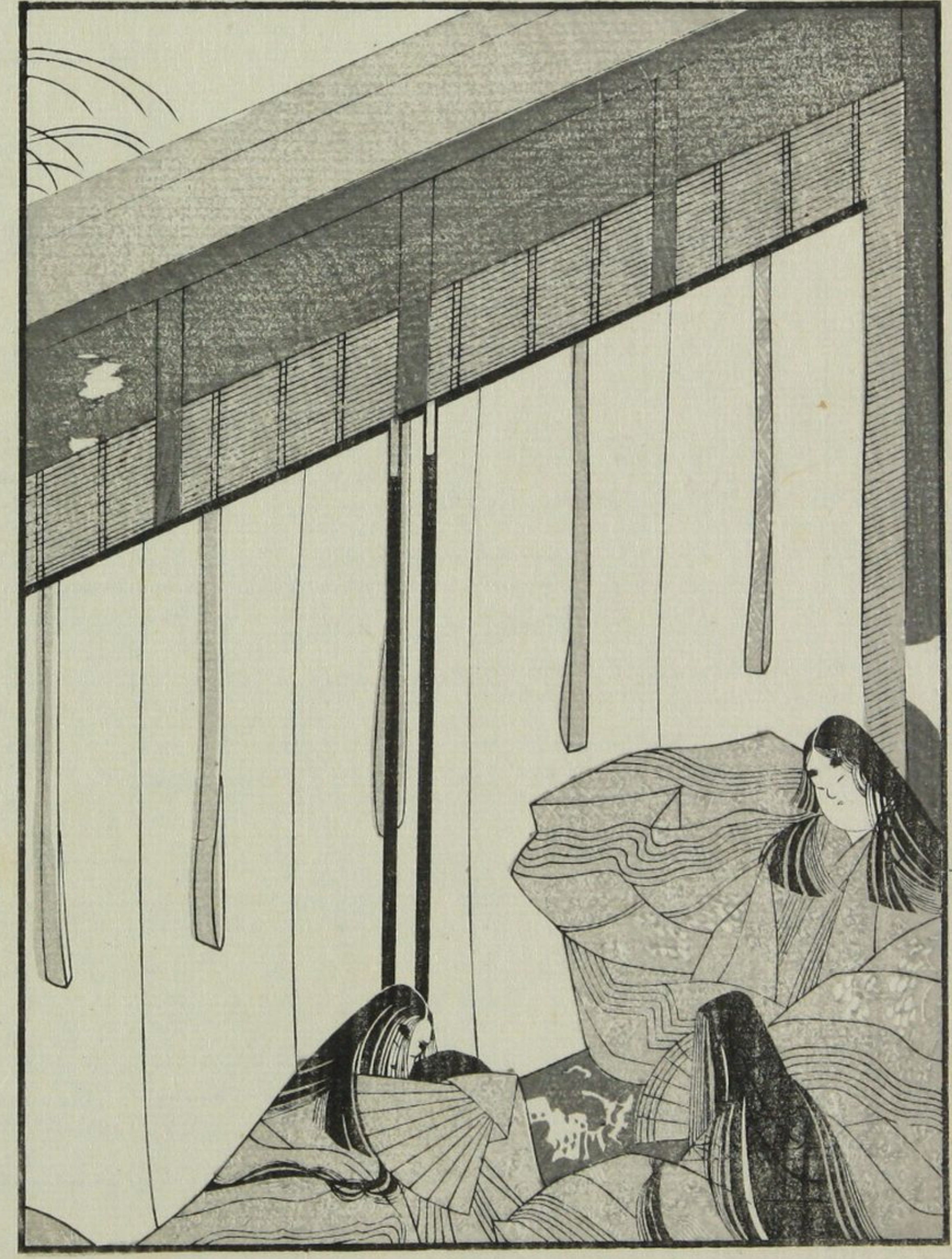
榮花物語

蜂須賀茂韶藏

繪本考古置箱卷之二

五十九

五十九



繪本考古置箱卷之二

りて、光時所畫ふりといへり。然して公藤卿ハ、
權大納言正二位、弘安四年五月廿一日、四十七
歳薨せらるゝて建永の當時ハ、未生己前なり。又
光秀ハ元亨中の人。一説ハ、詞大納言實秋卿と
まともにも、此卿應永十七年四月廿一日薨む。光
秀よりハ後輩小して、いづれも時代のけ合が
たし。

補同

補 倭錦云、信實榮花物語、詞後京極

補 真頼曰、摹本淺草文庫にあり、表紙小記して
云、初花の巻一卷、松平阿波守藏、卷名不知の巻
一卷、松平隱岐守藏、繪藤原信實、詞書後京極良
經公と見ゆ。初花の巻ハ、今も蜂須賀茂韶

藏せり

補同 御産圖

補 圖畫一覽上巻云、榮花物語御産圖一卷、此畫卷
未目撃、故修理大夫頼理卿物語ニテ、聞知ルモノ
ナリ、彼家被所藏歟

補 圓光大師繪詞

補 圖畫一覽下巻云、圓光大師繪詞

補 真頼曰、圓光大師繪詞ハ、即法然上人繪傳を
り、數種あり、ほノ部見べし

補 圓住上人繪詞 四卷

補 古畫目錄云、圓住上人繪詞四卷、采女祐相保筆

補 同 殘缺 一卷

補 同 書云、圓住上人繪詞殘缺一卷

永福寺扉繪

吾妻鏡云、建久三年十月廿九日、永福寺扉、并佛後壁畫圖、終功、修理少進季長畫之、是被摸、秀衡建立圓隆寺、至于畫圖一事、以上如彼云云

躬行按ふ、此寺既小廢、新編鍛倉志、永福寺二階堂と号す、府の東北小あり、今田間、礎石をみるといへり

永久寺板障子繪

畫圖品目、載之

補本朝畫圖品目云、永久寺板杉戸之圖

補越後國往古圖

補圖畫一覽下卷云、越後國往古圖

補箴繪様

補長秋記云、大治五年正月十一日、召信茂、賴俊、令畫、劔平緒繪様、依院召其責尤甚、十七日、召賴俊、令畫、箴繪様

補遠州濱名橋圖

補古畫目錄云、遠州濱名橋圖、摹本在柴彦助家

補真賴曰、予摹本を藏てり、橋のさま黒木のぞ

とし

補惠心僧都母像

補三國傳記卷十二、惠心院源信僧都事の條下云、母上ハ僧都

ヲ待得給テ曰ヒケルハ、親子ノ昵ビ香ハシケレバ、病床ノ穢ラハシキヲ忘レ給フニヤ、我身ノ老衰ハ云ニ及バズ、己ニ四十二餘ル程ノ老僧ト成給、更コソ悲シケレ、今マテ遂ニ見參無リシ事、何

ヲ恨ニ思召ツラン。對面ノ期ヲハ是ヨリ可申。常ニハ御返事書タリシハ。寂後臨終。善知識為也。今己其時也。念佛聲ヨリ外ニ余ノ詞ヲ交ベカラズ。佛好相ヨリ外。他ノ事ニ心ヲ移サジ。喜シク知識ニ値ヘリ。今ハ淨土ニ可生トテ。自ラ西ニ向テ。十念不亂唱。玉ヘバ。僧都モ看病ノ人々モ。共ニ念佛ス。稱名十返餘ニ及デ如眠。寛和元年九月十八日ノ酉ノ時ニ。御年七十ニノ氣絶玉ヘリ。誠ニ嚴重ナル往生人。歎ノ中ノ喜ナレ共。僧都七歳ノ時別シヨリ。四十二ニテ始テ對面アル事ナレバ。御名残惜ササコソト哀ナリ。親子ノ値遇。只一寢ノ夢ノ如クナレバ。宿縁ノ程ノ恨メシサニ。老々タリシ十念成就ノ合掌ノ体ヲ。泣々繪ニ書留メ御形

見トセリ

補圓空上人像

補集古十種肖像圓空上人像。攝津國多田院光遍寺藏

補真賴曰。座像ニテ。右手に珠數をもてり

補圓光大師像

補東大寺寶物目錄云。圓光大師影。觀真房筆

補真賴曰。圓光大師ハ。即法然上人あり。上人の像數種あり。厚ノ部見るべし

補同 一幀

補鏡倉光明寺藏。絹本。寺傳云。鏡御影

補政矩曰。海藏寺所藏玄翁禪師の像。畫風相似。似と。恐らくハ同筆なるべし

袁部

小野小町盛衰繪

吾妻鏡云建曆二年十一月八日於御所有繪合之儀云云廣元朝臣獻覽繪者圖小野小町一期盛衰事同日十月十日繪合事負方獻所課又召進遊女等皆模兒童之形評文水干付紅葉菊等着之各郢律畫曲此上堪藝若少之類及延年云云

嗚呼繪

今昔物語集廿卷第六云今昔比叡ノ山ノ無動寺ニ義晴阿闍梨ト云ヒシ僧有キ若カリケル時ヨリ無動寺ニ籠居テ真言ナド深ク習テ京ニ出ル事モ无クテ年經ルマニハ房ノ外ニダニ不出シテ有様極ク貴カリケレバ山ノ上ノ貴キ人四五人

曾補考古書雜考卷十一

ガ内ニモ入又ベシ。然レバ萬ノ人。只此ニ祈ヲ付
テ爲サスベキ也ケリトナム云ケル。其レニ此阿
闍梨ハ、嗚呼繪ハ筆ツキハ□□ニ書ケドモ、其レ
ハ皆嗚呼繪ノ氣色无シ。此ノ阿闍梨ノ書タル筆
墓无ク立タル様ナレド、只一筆ニ書タルニ心地
ノ艶ニ見ユルハ可^{フカシ}咲キ事无限。然ドモ更ニ□ニ
テハ不書ズ。態ト紙繼テ書スル人有レバ、只物一
ツ許ヲゾ書ケル。亦人書セケレバ、端ニ弓射タル
人ノ形ヲ書テ、奥ノ畢ニ的ヲナム書タリケル。中
ニハ箭ノ行ク形ト思シクテ、墨ヲナム細ク引渡
シタリケル。然レバ書スル人ハ不書トハ云ズシ
テ、紙ニ墨ヲ引ワタシタレバ、異物モ否不書マジ
トテゾ極ク腹立ケル。然レドモ事ニモ不爲シテ

有ケル。少シ僻者ニテ有シカバ、世ノ人ニモ不被
受テナム有シ。只世ニ並无キ嗚呼繪ノ上手ト云
名ヲ立テ、真言吉ク習テ、貴キ者トハ、人ニ不被知
テナム有シ。名畫拾景
亦採載之
躬行曰、このをこ繪といふものも、今ハおほう
と世ふもてまやさぬバ、その名をどおとてな
む

男食三郎物語殘缺 一卷

古畫目錄云、大須磨三郎繪一卷、松平□□藏

寛政丙辰入叡覽

畫圖品目云、大須磨三郎物語一卷、殘缺藝州
家藏

畫圖品類云、大須磨三郎物語一卷、畫古土佐詞二

條爲氏卿畠山
牛定

倭錦云土佐隆相男衾三郎草子詞二條為氏卿

補可為曰畫住吉法眼三卷アリト云云

補元幹曰此の草子本二卷ありべし。畫詞共ニ不足

貫雄曰為氏卿と隆相時代不合と。躬行按ふ為氏大納言ハ、薨年さだらふらねども、尊卑分脈小弘安八年八月出家とみえたり。隆相ハ顯文抄ハ、地下傳ふよりて、越前守長隆の男とせり。その長隆ハ、文永頃の人かれバ、其子隆相ハ正應永仁の頃とまべけまバ、為氏卿と時世たがひてもあらざるべし。又曰、此物語の名ハ、男衾なるを、諸本をふをたほふ誤り。法ひふ大須磨おど、あらぬ文字を

小弓御所軍繪

補本朝畫圖品目云、小弓御所之軍

推めてとる也。此物語ハ、吉見男衾とて兩家ありしふをぶをまハ、和歌管絃を好みて優なるをのこよしみハ、ひとをら武勇を立て、いらなくふるまひより、かくて男衾都ふのほるとて、途中ふくあへあく討るよ、あつが、巻のまをかけて、作者の用意をあらまを、男衾吉見ハ、共み武藏のくみの地名なり。但宇喜田一蕙ハ、此繪三卷、住吉法眼筆といへり。是非をあらび

補真頼曰、男衾三郎繪詞、殘缺一卷。摹本博物館小あり。卷尾云、をぶをま三郎繪卷物一卷、詞書為氏卿、畫土佐松平安藝守殿所藏と見ゆと

畫圖品目載之

補 女郎花物語繪

補 燕石雜誌卷四云。女郎花物語

補 小野宮殿松の繪の障子

補 古今著聞集卷十一云。小野宮のたごつるち障子。小松をかゝせんとして。常則をりしけま。他行したりけり。さらばと。公望をりてか。せらまに多り。後小常則をりして。見せらまけま。バかしら毛芋小似と。他所難なしとを申り。常則をバ大上手。公望をバ小上手。とぞ世小ハ稱しけり。爲成一日。中。小。宇治殿扉の繪を書りけり。を。宇治殿仰らまけり。弘高ハ。繪様を書て一夜なほよくあんにじてこそくきたりし。う。いか

かく卒示小ハ書ぞとあん仰らまけり。常則が書たる獅々形を見てハ。犬ほえあらきてたどろきけり。とあん

男繪女繪

中右記云。寛治八年八月十九日。今夜大殿於賀陽院有歌合興。是依永承例。女房與男房爲讀人云云。次東戸前立左右文臺云云。唐人硯臺邊立和歌書五卷。打敷赤地小文錦和歌書物。卷文各五卷。祝各一卷。稻璃軸。色々之。紙。下繪。左。女。繪。右。方。男。繪。皆。書。哥。情。歎。美。麗。過。奢。無。極。榮花物語根合云。右大臣どの。姫君内。おまるらせ給ひぬ。京極殿なまばいとせむし。琴ハひうせたまひ。繪おどいとめでとく書せたまひ。をとこ繪など。畫師まつうしう。の。せたまひて

補同書云。うたかくべきさうしどもに。このどい
のころ。ろむへを。男繪女繪とかきたる。ふ。かぬゆ
きぞ歌はうきたる

躬行曰。このをとこ繪をいふ畫といふを。いと
聞なれど。かほろとちハ男文字をみおもドの
ためしなるべく。かしをうらるまど。なほそれ
まいた兒の。たどくしきくちせらるるを。
畫うきにとへど。あらびとのいぞいふある。さ
れば後のかむぐへのとりふとく。こくまハあ
るせま

補女田樂繪

補圖畫一覽下卷云。女田樂繪。即夜須良比花ノ異
名ナリ

補真賴曰。女田樂繪ハ。夜須良比花の繪詞なま
ハ委しくハ。やノ部ハ出せり。就て見るべし

補小忌衣の紋の繪様

補人車記云。仁安三年十月十二日。大嘗會御禊所
點地也。略中次召繪師能登權守宗茂朝臣。參東庭判
官史仰繪圖畢。即繪持參。忍口圖兼六枚次判官史件
繪圖注。郡鄉村名云云。廿九日。小忌文今日令畫繪
様。宗貞執筆。龍膽小鳥相交。即仰佛師。兩三枚令彫
之。代々其文相替云云。仍所議定也

小野篁卿像 一幀

畫工不傳。三尺四尺八寸六寸。絹本。大和國弘仁寺上郡在添
補集古十種部像云。小野篁卿像。大和國弘仁寺藏
補本朝畫圖品目云。小野篁卿像。傳云弘法大師筆。

弘仁寺什

補真賴曰、束帶の座像なり、右手に笏をもてり
補又曰、本朝畫圖品目、弘法大師の筆といへ
る傳説を擧ぐるハ、かゝらば非あり

小野道風朝臣像 一幀

好古小録云、信實朝臣畫其容貌、其衣服實ニ當時
ヲ想像セシム、此像模本ニ裾アルモノアリ、俗工
ノ猥ニ添所論ズルニ足ラズ祖朱族ノ闕
類聚目錄云、左京權大夫信實筆、青蓮院宮御藏

同 一幀

賴壽法橋筆、畫上貼道風朝臣真蹟一葉近衛家御藏
躬行曰、此畫容貌衣服、信實朝臣筆といふもの
と、全く相同じといへり、予未是を親展せば

補真賴曰、黒袍を著り、此の畫今ハ宮内省の
御物となせり

補同

補京都畑柳平藏

同 一幀

大内記小野舉時畫紺色絹上以金泥畫之長四尺
餘潤一尺七寸餘色紙形赤青
二枚亦以金泥畫花鳥讚天台座主明尊源小ハいふぬい
の少クせましをるを、きみをあきうせふまら
せをて、む

木工頭小野朝臣道風之肖像、父大内記小野朝臣
舉時所拜寫之也、故以曾祖父道風朝臣之詠歌書
之、安干當院、千時永承三年十一月十一日天台座
主明尊押此記文有像右傍

補本朝畫圖品目云小野道風朝臣紺絹泥金像畫
兵庫頭舉時色紙形書天台座主明尊

躬行曰此歌後撰集秋上小載より普通本結句
まうせまてとむとありハ誤あり

又曰扶桑略記康平六年六月廿六日前僧正明
尊入滅九十三兵庫頭奉時子也天台座主記明
尊内藏頭道風孫兵庫頭奉時男古今著聞集志
賀僧正明尊道風孫兵庫頭奉時子也筆葉を憎
む人ありけり云云元亨釋書卷四釋明尊武庫
令奉時之子道風之孫篁之曾孫云云永承三年
八月任天台座主康平六年六月廿六日卒九十
三諸本かくありて明尊を篁卿の曾孫道風朝
臣の孫とありハ此記文と不合但大日本史列

傳ふよきバ小野岑守生篁篁生葛ツク葛ツク生子
二人好古道風道風生俊生俊生美材ヨシと云べ
しさて美材生舉時舉時生明尊と云バ是も
まゝ記文と不合他日小野譜善本を得て訂正
べしまゝ諸本舉時を泰時或ハ奉時と作るも
のハいづれも字形の似たりより誤りあり
又曰新古今集傷僧正明尊かくきて後久し
くありて房おども若くらにとりまゝして草
むひおげりことまに成ふけりをみて律師
慶運なき人のあをまゝとて來てをバあ
らぬさとみおまにけりとなとみえり此
畫奇世の珍あり攝州伊丹人故山川真清族人
藏今東京青木信寅所藏或云原和州法隆寺什

小野道風朝臣像

大内記小野舉時畫
摹本在博物館



物

補 眞頼曰此の像萩野竹洲の所藏なりしに。今ハ青木信寅の所藏となす。摹本博物館ふあり。摹本よをといハ法隆寺の什物なりしよを記せり

補同

補 集古十種部像 小野道風朝臣像 瀬尾某藏

補 本朝畫圖品目云 小野道風像 畫信實

補 同書追加云道風像 京師中立賣妹尾彌兵衛 薩州出入の町人持てり 此像青蓮院宮ふもあまど。よろしうらび 彌兵衛所持古くして第一なり

補同

補 小野社藏

補閑田次筆卷二云右の装束の制度ふつきて、れ
もしろきことハ、小野道風朝臣の肖像、即小野社
の真影の、寫しおるよ、此物ありて、誠ハ馬面と
いひつとふるごとき容貌おして、その装束ハ、重
もふき衣冠おて、畢竟うちよ、このさまお見え、右
の手に筆をもち、ものか、んとの、おもむきおご
ら、硯箱ハ、おへりて、左おあり、即左おりつを、此装
束のさま、なへ、として、袖狭少に見ゆ云云

補小笠原貞宗像

補小笠原系圖系圖纂第五小笠原貞宗譜云、後醍醐天皇御宇、
常令參内、調馬於丹墀、試射於金門、顯名譽、為御師
範、或時、帝出御殿之南面、貞宗馬上而令習其藝、之
時、親被掛御手於鞍上、正令、歡感鞍中之様、給家門

之面目、何莫如之哉、愚身之冥慮、難量、恐天之旨、貞
宗謹申云云、加之命官畫工大藏丞、令繪貞宗像、給
至于今、現在洛陽東山長清寺、衣冠之像是也

補同

補古畫類聚目錄云、小笠原信濃守源貞宗像、建長
寺禪巨菴藏

補岡屋禪閣像 一幀

畫匠姓名未詳、藤原兼經公像高山寺

補小野忠明像

補山城國伏見河田中行所藏小野次郎右衛門忠明像、
贊云、二祖小野治郎右衛門忠明、懸崖翻躑、是真獅
兒、八面受敵、體用無虧

補真頼曰、座像おて烏帽子直垂を着、り、此人

劍術小名聞也、了人なり

增補考古畫譜卷十一 大尾

明治廿四年二月十五日印刷
全 年三月十一日發行

東京帝室博物館藏版

版權所有

發行兼
印刷者

御用書林
有隣堂 穴山篤太郎

東京京橋區南傳馬町
貳丁目拾三番地
(特電話本局千五十五番)

